愛國婦人

毎月五日二十日發行

一冊金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
東京麹町區（牛ヶ淵公園）
發行所　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　大久保高明

社説

養生　一

今更健康は人生の寶なりなど、仔細らしくいふの必要なく、分りきつたることなれども、不養生ばかりして、不健康へ不健康へと、あせり行く人間こそは、不思議なれ。人間とは、求めて不養生する動物なり、不養生の化け物なりといはれても、今の有様にては、辨解の辭あるべからず。人は死ぬるものにあらず、自殺するなりと、或人のいへるは、理なり。人は百二十五歳までは生きられるものなりとの、大隈伯の言を聞きて、不思議がる人あれども、一向珍らしからず、これほど當り前のことはなく、不思議がる人こそは珍らしけれ。鐵道往生、投瀑往生ばかりが自殺にあらず、不養生即ち自殺と知らずや。人は顔を洗ふより寢るまで、熟考して自殺の手續を、毎日なしつゝあるものなり。

先づ食事に就て見よ、身體の榮養に必要なる食物は、大抵極まれるものなり、然るに三杯で足る飯を五杯食ひ、清水ですむものを、アルコールの入れる水を飲み、やれ菓子だ鰻だ蕎麥だと、足りたる腹になほも重荷を負せつゝ、散々胃腸を惱ませおいて、何うぞ長生するやうにと祈り願ふの有様は、實際正氣の沙汰とは思はれず、しかも人は見て之を怪まざるなり。天然は勘定高し、屹度仇は取るものなり、暴飲暴食の因果は覿面、胃腸のカタルを起して、四五日寢床でウン〳〵いふ位はまだしも、遂には酒や天麩羅と打死するに至る、何と安き命にあらずや。人は生きるが爲に食ふものなり、食ふがために生きるものにあらずと知るべし。

人は鼻から煙りを出す唯一の動物なり、感心といへば感心なれども、鼻から煙りの出るのが、人の人たる所以とも覺へず、煙草には、ニコチンといふ名は愛らしけれども、恐ろしき毒を含むときく、呑まぬ方が養生なるべし。

垢附きばかり憂きものはなしといふ口の下から、八萬四千の毛孔を垢で埋めて、夏向きも汗臭き着物を着て居るは、虱や蚤の養生にはなるか知らぬが、人間の養生にはならぬものなり。甘茶でお釋迦樣の玉體を洗ふよりも、我が身に行水した方が佛の思召にも叶ふと知らずや。日光は强力なる殺菌作用を營む、嗅いで自分のと分るが如き夜具布團は速に洗濯すべく、又時々は日光に曝らすべし。水と空氣と日光とは、天然の最良なる衞生材料にして、且貧富の別なく、誰にも無代價にて自由に得らるゝものなり。高くて利かぬ藥を買ふよりは、安くてよく利く自然の藥を十分に用ゐるべし。水は百藥の長、ブースの養生法にも水を飲めとあり、何か飲みたき時は、酒は勿論茶やコーヒーなど飲まずして、沸かしたる清水を飲むべし、何よりの藥なり、血管には茶やコーヒーや酒が循環しては居らず、大部分は水なる血といふものが流れ居るなり。我等はこの點に於て水飲み百姓たらんと欲するものなり。酒を飲まずして、水を飲む國民は、健全にして、希望ある國民なり。英米の良き家庭にては、食事には清水を飲み居るなり。リボンや肩掛や束髮の眞似ばかりせず、少しはかゝる事も眞似て、眞面目なる醉んだくれのなき家庭を作るべし。煙りは竈の中か、工場の煙筒から出づべきものにして、鼻から出づべきものにあらず、肺臟は新鮮なる空氣を宿さんがために出來たるものにして、煙りに占領せらるゝは、造化の本意にあらず。天然に對する謀反は、自滅あるのみ。日光は瓦斯や電氣の光に優る。朝起きして日の出の光に浴するは、延命の秘法なり。朝寢して、寢ぼけ眼を日光に射られて、土龍の如く、弱りこみ、夜だけ達者にて、日光に代ふるに、人造の光を以てし、宴會に舞踏に夜ふかしをする人間に限り、顔色あしく、身體痩せ衰へて、蠟燭を立てらるゝ身となるも遠からずとぞ覺ゆる。人爲に代ふるに天然を以てせよ。人は死ぬるものにあらず、自殺するなりとの毒言を、微塵に碎くは、醫者にあらず、祈禱にあらず、人々の心掛け如何にあるのみ。

瑞西アルプス連山第二の高峰ユングフラウと氷河

幸福を享くべき一資格

愛國婦人會評議員　鳩山春子

人生の最大幸福は何なるかと問はゞ、人各其答を異に致しませう。巨萬の財產も至高の爵位も、之れ同胞の間に樂しむの機なく、同胞より擯斥を受け、伍するを厭はるゝ身は果して幸福でありませうか、人と交際するも其興味を感じ得る事なく、自らは別に惡意なきも、常に同席の人に惡感情を起さしめ、他より邪魔物厄介物視せらるゝ、如きは、其人如何に富貴なりとも、幸福ではありますまい。

たとへば、爰に一つの富貴なる人ありと假定せんに、此人別に惡人ならざるも、其擧動言語常に同席の人をして不快嫌忌の念を起さしむるか、又は友人間の面倒迷惑の原因を惹き起す癖ありとせん、最初は何の考もなく、此人を招待せし主人は、自らは其人物を憎み厭ふ事更になきも、他の客に對し、再び此人を招待するに躊躇すべし、例へば食事の禮に嫺はぬため、共に食する人に嘔吐を催さしめ、談話の心得なきため、同席の人の迷惑面倒を惹き起すべき話柄を平氣で喋々する如き、又は壯嚴なる席に野卑寢室用の衣服を着けて出席し、或は宴席に於て論爭し、悲哀の場に於て談笑して自他の感情を傷くるが如き、或は又招待の宴に於て、憂鬱の顔色不滿の容貌を示し、又は傲然他客を瞰下し、喜怒色に顯さずとて、寡言得々として他をして寂寞たらしむる如き、或は又浮華諂諛、饒舌いよ〳〵熾にして、其意いよ〳〵卑しむべきが如き、これ皆自ら惡意あるに非ざるも、彼我の交際を圓滑ならしめ、人生の幸福を樂しむ所以を知らざる人でありませう。畢竟ずるに、斯る人は、家庭に於て、毫も禮儀の觀念を養成されぬに因ると思ひます。

古來東洋の風習として、大丈夫小節を顧みずとか、區々たる辭禮吾に於て何かあらむとか云ふ風にて、禮儀は婦人の事として毫も男兒に應用せざる如き風あるは誤謬の甚しき者で東洋男子の殊に品行の亂るゝ原因を作せし事と考へます。

凡て女子は自然に禮儀に悟り易く又實行し易ければ、母親たるものは女子よりも特に男兒に一層深く注意して、之を重んずる習慣を養ふべきであります。男子は總じて外出する事多ければ、その野卑なる擧動は、幾何の人に迷惑を及ぼし、惡感化を及ぼすかも計られませぬ、之を思へば、實に恐ろしき事と存じます。

或は斯樣に申す人もあります、禮儀は元他に對し、尊敬相愛の誠意を其言容貌擧動等に表はる者なれば、常識に富みたる人は其心情だに誠實ならむには、容易に之を行ひ得べしと。一應尤もの樣でありますが、是亦誤れる者と思ひます。禮儀は元來識者が數千年間研究し、其時代〳〵の生活狀態に依り改良し規定したる者なれば、如何なる人も、毫も學ばずして其規定を越えざる事は、到底能はざる事で、殊に維新以來歐米の文物大に我國の社會に輸入され、交際の狀態も一變せる過渡時代は、啻に常識のみを以て判斷し、自ら得々たる往々粗野に陷るは、免かれざる次第でありませう。依て世の母親たる人々は、自ら泰西の禮法をも研究し、これを適宜に其子女の幼時より應用せしむるとは、德育上殊に緊要な事て、又其子女の生涯の最大幸福に缺く可からざる一資格を作るのであります。

◎本號には山形支部飽海郡幹事部總會の寫眞附錄を添ふ

◎電話番號　番町一五百二十番　一千七百四拾五番　愛國婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

家庭教師に就て

法學博士　寺尾亨

近時は婦人の活動すべき舞臺が漸く廣く既に施設其緒に就き經營亦見るべきものあるは實に愛國婦人會である而して又之等婦人會に關與せらるゝ貴婦人方が社會に貢獻すべく運動して居らるゝは誠に國家のため喜ばしい譯である。

倂如斯公共事業に奔走せらるゝ婦人方の多くは家庭の主婦たる人々であるが肝要なるその職分たる子女の教育を家庭に於て如何樣にして果さるべきかに就いて聊か愚見を述べて見よう。

元來現代の學校教育は一級數十名位を一括して教授するといふので其學藝の優劣に就ては識別することは出來ても之を個々人別に其性情の詳細を視ることは實に至難の業である殊に德育の點に至ては學校教育は尚大に之を家庭教育に俟つべきである、故に此頃教育は學校と家庭との連絡を大に必要とする所以である。

それで婦人の方々は主婦としての要務たる子女の教育を完全にし其餘暇を割いて公共的事業に奔走盡力すると云ふ事に爲て貰ひたい者である其所で二者を全うするには何したらよいかと云ふに即ち相當の家庭にありては家庭教師を聘して之に託するに子女教育の全權を與へ過すに師の禮を以てし其家庭教師たる機能を全たからしむる樣注意すると同時に眞に國家を愛するといふ誠意より出でたる熱心を以て公共の事業に奔走盡力すると云ふことにしたらばよからうと思ふ。

今や國家の新興に際し家庭の如きも亦大に舊時と面目を一變する必要を認むるの趨勢となつて居る換言すれば國家の進歩は更に家庭の進歩を促すの理である即ち家庭にありて子女教育の向上進歩に特別の注意を拂ふは時代が要求する教育特に其國家の必要に順應する新教育の勃興を意味するのである然るに吾國に於ては未だ家庭教師を聘用して完全に子弟の教育を依託したるものは少ないのであるが島津公爵家に於ては先年來然るべき英國婦人を聘して同家の家庭教師として居らるることゝ此英國婦人は曾て某國皇室の家庭教師として名ありし人なり同家に於ては此婦人に託するに子弟教育の全權を以てし他の人には全く關與せざるもの、如くして専ら此婦人の指導に賴らしめてあるものにて其成績亦從て良好の由である又申すも畏れ多きことであるが内親王殿下皇孫殿下を始め奉り皇族方の夫々聰明に渡らせられ給ふを見るに付けても御家庭教育の方法が十分美事なる御成績を表はして居るものと信じ奉ることが出來る是れ其方法のよろしきに依るものであらうけれども一には亦教師其者の忠實熱誠に獻身的奉公の實を效すためにも依るのであらうと思ふ。

其他の華族又は富豪家等に至りては自分は不幸にして未だ家庭教育に付て良好なる成績の擧りつゝあることを見聞することが出來ずに居るは是れ大に家庭教師たる被雇者の學力才氣に於ても又人格に於ても中等の人物にして云はゞ他に賣れ口遠き樣なる者の採用されて居るにも依るのであらうが又一には雇ひ方に於ても一種の子守女視して稍々其れよりも待遇をよくして居る位の實があるそれではとて優良なる家庭教師を聘用するとはむつかしいと思ふ從て良好なる成績が見えないのも道理である。

上流社會に在りて公共的事業に奔走せねばならぬ婦人方は肝要の主婦の務を忘れずに其身之に任ずるの暇がなければ人格の立派なる德望もある家庭教師を聘用し且相當の待遇法を立て、之に信賴し而して身は公共的事業に盡瘁すると云ふ事にしたならば二者ともに婦人の責務を全うする譯である况んや家庭教師を望むもの、中には義俠的之に當らんと欲する抱負を有し而かも人格の立派である婦人もありて前の如く子守女視せられずして其務を盡くすを得るといふ場合には隨分獻身的に其衝に當り間接に高尚なる國家的事業に貢獻せんと期するが如き立派なる婦人も輩出するに至らんかと思ふ貴婦人方の御考へ一つにて一擧兩得の事業を成功する次第である。尚中流以下の婦人方にして到底家庭教師を聘用する能はざる場合には身自ら完全に其責を盡くしもし餘暇あらば之を割いて公共的事業に盡力するといふことにしたならばよいかとも思ふ我家を外にし奔走するといふことになりてはつまり公共的事業に奔走するよりも一種の虚榮心に驅られ運動するといはるゝことゝなるのである尚最後に一言致し置き度は眞誠なる愛國の精神より公共的事業に活動せんと熱中せらるゝ高尚の精神を有せらるゝ婦人方は家庭教師を利用せらるゝと否とを問はず間接又直接に自己の高尚なる國家的精神を子女に吹き込み他日に自己或は自己以上の熱心なる愛國者を出す事に心掛くることは極めて貴重なる影響を將來に及ぼす譯である（自分は主婦が家庭に於て少くも二三人の子女を教育するは國家に對する婦人唯一の責任であると思ふ自分等の如き不幸にして子女なき家庭にては特に相當の子女を嬰兒の頃より貰ひ受け之を保育して家庭に於ける婦人の責任を果さしめようと云ふ考である）極めて貴重なる影響をのこす事となる特に國家に盡さんとの志内に炎ゆるも一家の事情の爲め十分其事を盡くす能はざる婦人方にありては其煩悶を轉じて他日子女をして國家に貢獻する處あらんとの望を以て其家庭教育に專心熱中するが如きは是亦非常に高貴なる一種の國家的活動とし見らるゝのであると信ずる（本篇は寺尾博士講話の概槪なり文字の責は記者に在り）

女子の境遇の改善に就て

東京高等師範學校長　嘉納治五郎

近頃婦人に關する問題中に往々女子の境遇の改善と云ふことを聞くがこれは結構なことである歐米諸國と交通が開けてから彼の長を取りて我が短を補ふことは個人のことに就ても國家のことに就ても盛に行はれ吾人の教育に就て得たことは少くない然し女子教育に就ては彼の長を取るは稍て却て我が美風を破壞しつゝある場合がないでもない例之ば歐米の婦人は知識が進んで居る身體も丈夫であるこれは畢竟彼の國々では女子の教育が行屆いて居るのであるからだとて何もかも彼等の眞似を爲やうとする夫が爲め日本女子の彼等より優れて居る克己忍耐謙讓忠誠等の諸法までも破壞してしまふに至るこれは角を矯めんとして牛を殺すの類である。

我國は古き文明の國には相違ないけれども幾多のことに就ては歐米諸國を先進國として進ねばならぬ併しながら我國の女子には彼國の婦人間に於て到底見る能はざる獨特の長所がある前に述べた克己、忍耐謙讓忠誠等の諸德は我より歐米の婦人に教へてもよいだけ我が彼に優つて居る、直接に女子教育の任に當て居る人々は勿論、婦人問題に留意せる人々は、斯る所に十分注意することが必要であると社會の組織から云うても歐米は個人制で所謂新夫婦別居で子供の育て方なども日本とは違つて居るが、日本は家族制で女子は嫁して直ぐ嫁の勉と云ふことがある、即ち夫の家族と同居し夫の親を親として仕へねばならぬから西洋式に教育せられた女子では、家庭の平和を保つことがむつかしいと思ふ。

論者或は家族制を不自然と云つて此風俗を破り西洋風に改めんと主張する人もあらうが其主張の可否は別論としても日本從來の風習は容易に改まるものではない家族制は容易に改められぬと云ふばかりでなくこれには又長所があるから家族制原則として老人と若夫婦が同居することになる同居すると嫁として隨分氣兼ねもあらうが老いて心細くなりし人を大切にして慰藉すると人道の然らしむべきことである、老人は又活氣ある若い者と同居し其上孫でも居るとこれを大なる樂とし餘程慰藉されて居る、子供の爲にも兩親に代つて眞の情を以て世話をしてくれる祖父母のあるとは非常な仕合である西洋では若夫婦は老人と離れて獨立の生活を爲し、世に多く望みを持たぬ老人を構はぬ風がある老人を顧みぬと云ふことは日本人の情としては甚だ忍び難いことである、英國などでは子供にも係はつて構て貰ふことの出來ぬ憐れな老人が澤山あると云ふことであるが之は全く個人制の弊害であると思ふ、之に比すると日本の家庭は圓滿に行つて居るのである、これは從來の女子教育の御蔭である然し從來の日本婦人は實際可愛想な位置にあつた、男子は隨分我儘をするし、姑は嫁に對して同情が少ない、爲に嫁のみ苦痛を受けて居る樣なことがある、これは改善すべきであると思ふ、即ち若い婦人の境遇を察し從來の不公平なる取扱を改めることを務めねばならぬ先づ男子には學校教育によりても輿論によりても婦人に對する心得を改めしめ從來の我儘を止め苦樂を共にする樣にさせねばならぬ又老人にも嫁に對する心得を改めしめ嫁に對し一層同情を寄せしむるやうにしなければならぬ或論者が云ふやうに女子が自分の權利を主張し男子と老人に對抗するやうなことになつては大變である、先づ女子の取るべき道は劍を用ゐる所を、笑顏で成功するやうにせねばならぬ、眞に此覺悟の出來た婦人にして、始めて尊敬すべき價値ある者、即ち立派な教育を受けたものと見做し得ると思ふ。

夫れで日本の女子教育は社會の組織と從來の風俗習慣に基き日本婦人の美風を維持することを主眼とせねば教育ある婦人が却つて社界の害物となり教育ある婦人は配偶者を得るに困るやうになるであらうと思ふこれ等は婦人自ら反省すべき問題である然し日本の女子は體育と智育に於ては大に改善を要する身體が弱くて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は自分の職分を十分に盡すことが出來ぬのみならず健康なる子孫を擧げることが出來ぬ又知識を進めることを務めなければ子女の教育もすることが出來ぬのみならず父や夫の職業に對し子とし妻としての內助を盡すことも出來ぬ從來の日本女子が往々卑屈に流れた形跡のあるは德育の爲てなく智育の不十分であつた結果であるそれ故日本女子の體育と智育とを改善し德育は大體に於ては從來の儘にして置きたいと思ふ。

愛國婦人會員に望む（承前）

衆議院議員 臨時市區改正局長 角田眞平

そこて世の中の多くの人は芭蕉と云ふ人が

古池や蛙飛びこむ水の音

と云ふやうに、眞面目な人情などに關係の無い句ばかり詠んだ人と覺えて居つて、婦人の人情などは解さずに佛臭い研究をして居つた人と思うて居ますが、決して其樣なものてはない、私は理窟ばかり申すのも餘り暑くなつた時節には肩が張りませうから、御參考の爲に芭蕉が婦人に就て研究して居たと云ふ發句を列べてお眼にかけませう、

梅柳さぞ若衆かな女かな

是は固より春の句です、誠に婀かな姿を見立てた所で

さかりじや花にそゞろうき法師 ぬめり妻

是は花見時の有樣を詠んだので浮きうきした景色が見えます、此ぬめり妻と云ふのはなまめいたる女の有樣てあります。

萱摘んで貧なる女機による

是は貧家の女などが今機を織りながら飯時になりまして、飯の用意の爲に萱を摘んて、さうしてまだ多少時間があると云ふので又機によつたと云ふやうな、前の二句と違つた所の景色を見せたのてあります、それから夏の句を一句言つて見ると

ちまき結ふ片手に挾む額髮

是はどうも畫にても書いてあるやうな工合が見えます、それから秋の句を三つ四つ申しませう。

芋洗ふ女 西行ならは歌詠まむ

誠に詰らない事實でありますが、斯う言ひこなして見ると中々好い景色になります。

砧打つて我に聞かせよや坊が妻

是は寺坊などへ泊り込んだ時の有樣て眼に見えるやうてあります。

後家の秋物のあはれを止めたり

如何てすか、如何にも能く人情を穿つたので、戰後の今日などに於て愛國婦人會などのお方々は誠に肝に銘ずることゝ思はれます。是が二百二三十年前のことゝは受取れぬのてあります。それから冬の句を一句申しますと、

大雪や婆一人住む藪の家

是は前の後家の句から引續いて、どうやらあの人がお婆さんになつたやうにも受取れて面白い感じが致します。サア斯うなつて來ると、何時の世ても春もあれば夏もあり秋もあれば冬もある、殊に人間の上に於ては男子よりも女子の上に於て其變化の感じが甚だ多くあらうと思はれます。それ故に世の中の事は注意を拂つて見聞を咀嚼しますと、何事も自身が働く上に於て參考になると思ひますから、私の好きな俳句の中てちよッと思ひ出した芭蕉の句だけを御參考に申して置きます。

以上は故の奥村刀自の緣故から御求めに應じて自分の所感を述べた次第てあります。尚多少御會の參考ともなるべき事を研究して置き時機もあらば申上げることにいたしませう。

烈公夫人登美宮御筆跡

登美宮 上

△水戸烈公齊昭の夫人を登美宮、御名を吉子と申された。有栖川宮織仁親王の最も末の王女て、文化元年九月の御誕生である。此時分の風習として、皇室皇族の御方々は、大統及び宮家を繼がせ給ふ御方の外は、大抵佛門に歸し給うた。既に此宮の御父織仁親王さへも頗る豪邁俊俠の御方て坐しながら、後に戒を承眞法親王に受けて御落飾遊ばされ、龍淵と仰せられた程であるから、まして內親王王女の方々は、稀れに攝家とか、門跡とか、武家の名族とかに降嫁し給ふ外は、殆ど皆佛弟子と御成り遊ばされたものである。此宮は御幼少よりして、非常に御聰明て、淑德の御譽高く坐しましたから、諸門跡方より御婚儀の御申込も、屢しあられたけれども、宮にはどういふものかこれに應ぜられなかつた。かくて天保二年十二月と申すに、排佛尊攘の巨擘、德川齊昭其人に降嫁せられたのは頗る偶然てないのてある。

△弘道館前の櫻　御降嫁に際して、先々帝即ち光格天皇に拜謁の儀あり。御家族の御方に御暇を告げ給ひ、長亭の松、短驛の月、詩歌の外ならては、嘗て御覽はし給はざる、東海道の風光に幾日かを費し、江戸小石川なる水戸邸に入らせ給うた。此の時南殿の櫻一株を拜受して齎らせ給ひこれを水戸弘道館の前に植ゑしめ給うたが、春雨秋風六十年の後、なほ朝陽に映じて、國體の精華と、宮の御美德とを誇りがに咲き匂うて居る。

△いかて合はざらむ　烈公は御兄哀公齊脩の後を紹がれたが、哀公の時分は、恰も德川幕府全盛の際て、天下泰平に流れ、競うて奢侈を事とするといふ有樣であつて、水戸家に於ても、矢張其影響は免れなかつた。文弱浮華の氣が上下に瀰漫して、府庫は空乏し、武器には銹を生ずるといふ程のことゝなつて居た。そこて烈公襲職の始めより、勤儉の令を下し、冗費を省き文武を奬勵せられたから、要路の人々にも夫々交迭があり、藩內の面目も大に改まつて參つたが、何分奥向のことは、哀公以來奉仕し居る老女といふ樣なものが澤山あり、特に哀公の御夫人は、將軍家齊公の第五女、峯姬と申す方て、所謂御守殿の威風は藩內を壓倒し、藩ても特別の御取扱を申上げて居たから、流石の烈公も、是には餘程掣肘せらるゝ所があつて、大に困り入られた。然るに宮は降嫁せらるに及びて、よく御母堂に事へ、烈公との御中も頗る睦まじく、公が改革の御趣意といふものをよく體認せられて、御入輿の翌日から、綿服筒袖といふ御身拵へにて、毎日侍女を指揮せられて、內庭の事、何くれとなく立働き給うたからして、奥向の事も次第に改まりて、やがては、公が改革の御趣意といふものが、よく行屆く樣になつた。或時京都より御供申し女中が、やんごとなき御身にて坐しながら、下司の妻女と雖も、當今は兎角うとみ勝てある洒掃のと迄、宮が親しくし給ふことの、餘りにいたはしく思ひ奉りて、左程まて遊ばされずともと申上げた所が、宮には笑はせながら「すそたもと、合さばいかて合はざらむ衷につけるうらの身なれば」といふ御歌をものして示された。是にはかの女中も如何に恐入つた御思召てあらうかと感泣して退いたと申すことてある。

夏日

野口雨情

露吸つて
甘露のやうな
たんたん田甫の
螢が一疋
お山の頂上の
みんみんかなかな
お花はお家に
お盆のお飯

露吸つて
露吸つて
稻の葉に
とまつてる
杉の木は
油蟬
お母さんと
喰べて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

禮法と音樂との關係

愛國婦人會評議員　棚橋絢子

近來男女を問はず、禮法と云ふことは段々と棄たれて行く、即ち人情が輕薄になつて來たのを立證する譯てあります。然るに是と反對に、婦人間には音樂が流行して來ました。之は決して惡いとてはない、雖此流行が餘り極度となると、弊害を生じ易い、既に現時は此病的弊害に一歩を投じて居ると云ふ狀てあります。

元來音樂は心神を弛ませる故に、禮を以て之を括るの要がある、即ち禮樂は例へば車の兩輪の如く、決して之を離して修養すべき者でない。然るを現時は單に音樂にのみ狂奔して、肝心の禮法と云ふことに付ては、殆ど注意する者がない情態であります。斯くの如き風潮を長ぜしめなば、國家のため誠に憂慮に堪へない譯てあると思ひます。況んや樂は枝て禮は本てある故に、寧ろ樂に通ぜざるも、禮に通ずれば、人格修養の基礎は築れるのてあります。之に反して、單に樂をのみ修養して、禮を學ばざる者は、之れは枝葉に走りたる者にして、社會に立ちて何等の得る所もなからうと思ふ唯一種の遊藝者と選ぶ處なき者と云ふも不可なき道理てあります。故に世の子女方は是非とも、禮と樂とは離るべからずといふ點に深く注意して貰ひたいのてあります。

右は私が常々感じて居ります事てありますが、世間には今日如何に非禮者が多いか左に事實を擧げて見ませう。

或日私が娘の紹介て、或小學校長から講話に出てくれまいかと相談がありました、其時は確な事は決しなかつた、夫にまだ餘日があるので、大體差支あるまいと答へて置きました。其後改めて小學校長から期日其他の事て相談があると思うて居つた處が、なんの音沙汰もなく、時日を經過して、餘程後の事てありました、丁度晝時分娘から電報て直ぐ或小學校へ出張して貰ひたいと云うて來ました、が、其時私は前の話の事は頓んと忘れ、尤も忘れる筈てす、定まつた約束をした譯てありませんので、其所て何か間違てはないか、念の爲め電話て娘へ問合せに人を遣りました。其後て不圖前記の事を思ひ出したから、或は夫かも知れないと思うて、遙かに晝めしも喫せずに腕車て馳付て行つて見ましたら、其學校てあつた、依て兎に角講話を濟して歸宅しましたが、其爲に約三時間ばかり費しましたから、定し後て挨拶位には來る事と思うて居ましたが、何んの音沙汰もなく時日を經過して、私も終に其事を忘れて仕舞てをりました、處が其後近火がありました其時に、其小學校の教員が見舞に來て、序に先日の講話の禮を云うて、何れ其内校長も御伺ひ致します、疾くに御伺ひをせねばならぬのですが遂々延引致して居りますと云うて歸りましたが、其後遂に校長は見えませんでした。

是はなんでもない事ですが、徹頭徹尾非禮に渉りてをる事實てありまして、即ち如何に近時禮法が輕視されてあるか分るのです。殊に身は小學校長と云ふ精神教育なり學術教育なりに於て、第二の國民を育成すべき職務を有してをる者てありながら、斯の如く、不確に物を極めて、然かも爲すべき禮儀を缺くのてありますから、實に驚くの外はありません。斯樣な例は幾何もあります。誠に禮法の尊重されない樣になつて來たのは、國家將來のため頗る寒心に堪へない譯てあります。

以上の譯てありますから、世の子女達に特に告ぐるのてあります。音樂は精神慰安上の具てあるけれども、是非とも禮法を以て之を括ると云ふ事に心掛けられんことを願ひます。

彩色使用法に就て（承前）

小山正太郎

支那は古來より彩色の教育に就ては、非常に發達して居る、現在上海や天津や英領香港邊の市街の體裁は、日本に比し大いに進歩した彩色の裝飾を施して居る日本の如く白木地へ看版などを書いてあるのは殆ど絶無と云ふ位である、何れも意匠を凝し、人目を延く樣に彩色が用ひられてある。見易い例を擧ぐれば、舟の櫂の如きも、支那にありては彩色が施してある、日本のは白木地てある、又桐油の如きも日本にありては單に油を塗抹してあるのみなるも、支那にありては其上に一層の彩色加工がある、日本にありては雜種商の如きは稍々彩色を施せる看版を出しつゝあり、故に彼地に航し是等の彩色ある者が見て、日本に歸り先づ長崎に着港する、艀が來る、夫に乘て居る舟夫の印半纏の紺色や、手拭の白色等何れも無趣味者に迎はるゝの感が起るのてある。

外國人が列國を漫遊後日本に來りて、尊敬すべき無形の高尚なる思想を有し居る人が澤山あるとしても、夫等は一回の交際後ならては眞價を得難く、先づ何よりも目に觸るゝは彩色の幼稚なるを見て其文明が低度にあると云はれはせぬか、進ては上流の人々に交際するの結果、其上流社會の室内裝飾に於て、高尚優美なる點を缺くの憂はありはせぬか、此點に付ても貴婦人の使用權内にある彩色と云ふ事は、適當の眼識を修養して貰たいのてある。

今日日本の産物として織物が外國に輸出さるゝも、重に無地或は白色である、夫等は佛國のリオン邊の織物場へ行き、其所で適當の彩色加工を得、爰に貴重なる高價品となりて販賣されるのてある、日本人は一寸下働きの觀ある境遇にあるのです、是等は若し日本に彩色眼識の超越したる者あらば、其高價品を直に吾國より賣出さるゝ事が出來るのです、此樣の類例は未だ外にも澤山あります、實に情けない位置に居るのてあります。

如上の次第てありますから、上流に位する婦人は、今後相當の御一顧を此彩色眼に加へらるゝと同時に、一個の品物を購求若くは愛玩なさるゝのても、其色合及配色の工合等の御心掛が肝要て、テーブル掛なり敷物なり或はきれ張椅子、窓掛其他室内裝飾等は、勿論風呂敷やハンカチーフの如き些細なる者に至るまても其色合を注意して、何人が認めても卑からぬ者と見て御求を願たい、隨分私共が見ても甚だ卑しい色の取合の者でも平氣で持て居らるゝ貴婦人方なども往々ある樣に見受けられます、是非其邊には精細なる注意を望む次第てす。

育兒のしをり　上編（つゞき）

ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄

五官器の保護

（九）耳の攝養

先天性の耳病は如何ともす可からず、されど生後屢々外來の原因にて耳病を起すこと尤も多く、例へば分娩後入浴の際水液耳中に入り、或は塵埃異物の箝入刺戟に由りて、耳の病を誘發することは、日常小兒科醫の見聞する事實にしても尤も注意すべき件たり。殊に多きは外耳、中耳の病にして、或は時として炎症を起し、或は耳漏となりて、絶えず分泌物流れ出づる事あり。俗に之を耳漏と云ふ。此病は多く中耳の病にして荏苒治せざるときは、遂に鼓膜穿孔の甚だ難治の症に陷るのみならず、夫より段々微菌侵入し、或は炎症延蔓して內耳の病となり、又屢々腦膜炎となり、危險の病症に陷り、遂に生命を危くすることあり。されば、小兒の耳病はいつも病症增進したる後始めて發見する者最も多し、如何となれば、最初はほんの耳漏位にて格別の徵候を呈せざればなり。依て日常豫防に注意する事最も必要なり。第一初生兒に湯浴さする時は、必ず耳中に少許の綿花を入るゝ事を忘る可らず、また初生兒に限らず、小兒耳中に水分入りし時は紙のこよりの尖に綿花を卷き込み、それにて靜に水分を吸ひ取る可し、又耳垢溜りしとて簪其他の者にて無暗に搔き取る可らず、これ鼓膜を毀損する虞あればなり。其他素人療治に色々耳中を洗滌するは禁忌なり

廣告

夏の化粧

日にやけぬ法　白粉はげを防ぐ法

日に焦けて黑くなりますのは餘り見好い物てありません、又誰方でも好んて黑くなさる人はないでせうが、つまり血液の中に含んて居ります鐵分が其の媒介者となりますので早い例が海水浴場などては直に黑くなります、之を防ぎますのには第一に汗を出さない樣に注意しなければなりませんがなるべく多くの水分を攝らない事と外出する時には必ず柔き皮又は布て顏を磨き後に完全な化粧水（ローヤル水の如き）を塗る事です、化粧水は白粉の附着を良くする爲又皮膚を美麗にし外からの毒の侵入するを豫防する爲にも是非共必要な物てすが其の品質の良否に依つては白粉の有毒と同じく非常に衞生上害が有ります殊に追々と暑くなりまして御婦人なぞは白粉がハゲたり日にヤケたりするが劇しくなりますからどうしても化粧水の必要が起りますが今の化粧水の多くは不完全な物てして昔から其のまゝの化粧下（ヘチマの水）と殆んど同じ性質の物て有りまして單に白粉下に用をなすのみて夫れ以上の効能がありません西洋と日本の化粧水の長所を折衷し之に數多の藥種を調合して最も進歩し且つ化粧水の模範として恥しくないのは東京銀座佐々木商店發賣のローヤル化粧水のみてす販賣店は全國到る處の化粧品賣藥洋小間物店に有ります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

馬のはるぎ（つゞき）

巖谷小波

さて其晩になるのを待ち兼ねて、午助は又臺所の隅に構へて居ますと、丁度昨夜の時刻に、昨夜の戸口から、昨夜の裸馬が入つて來ました。

初めは默つて見て居りますと、裸馬は又昨夜の通り、皿小鉢を洗ひ始めましたが、それが濟むとまた獨語を云つて、やがて歸つてしまはうとします。

所で午助は飛び出して行つて、いきなりその鬣をつかまへ、

「コレお前は全體何者だ？」

と聞きますと、馬は別に驚きもせず、同じく人間の聲を出して、

「さう云ふのは午助さんか！何を隱さう私も元はお前の仲間で馬吉と云ふ下男だつたが、大の〱無精者で、旦那から云ひつかつた御用をいつも碌に仕なかつたので、とう〱旦那の御機嫌を損じ、丸裸にして追出されたが、神樣も亦其罰で、私を生きながら馬にしてしまひ、そして此臺所で、毎晩皿、小鉢を洗はせなさるんだ。だが此寒氣に丸裸では、實に辛くてたまらないよ。」

と云ひます。

午助はこれを聞くと、可哀さうに思ひまして、

「ヤレ〱、それぢやアお前は馬の軀をして、矢張り下男の用をしてるんだネ。何しろそれは御苦勞な事だネ。」

「それでまア聞いておくれ！私はこの通り馬に成つてるから、指も何も無い前脚で、人間の通りの事をしなけりやア成らないから、どうして尋常の骨折ぢやア無いのさ。」

「だが……その神樣の御罰は、全體何時まで續くんだエ。」

「それは誰か私のために、春衣を一枚拵へてくれりやアいゝので……その春衣へ手を通しさへすりやア、私は元の人間に成れるんだが、何しろこんな態をして居ちやア、誰も肩を持つちやアくれないからねエ……。」

と、心細さうに云つて居ます所へ、鷄がまた鳴き出しましたから、馬は慌てゝ出て行つてしまひました。

此時例のお綱やお鞍は、もう寢床から出て居て、初から馬の話を、半分ほどは聞いて居りましたが、馬の行つてしまつた後て、更に午助からも委しく聞きますと、まづお綱の云ひますには、

「さう云ふ可哀さうな事ならば、皿、小鉢を洗つてくれたお禮に、私達が春衣を縫つてやらうぢやありませんか。」

と、相談しかけますのを、お鞍は打ち消しまして、

「何だねエお綱どん！そんな事をしてしまつちやア、もう洗ひに來ちやくれないぢや無いか。それよりやア、あゝして裸馬で居る間は、二晩洗ひに來てくれたんだから、私達はそのお蔭て、大きに骨が休まると云ふものだ。かまはないから、放棄つておいて、何日までも洗はしておやりよ。」

と云ひます。それでもお綱は頭を振つて、

「いゝえ〱！それぢやア如何にも可哀さうだから、お前が厭なら私一人で、春衣を拵へてやるからいゝ。」

「お止しと云つたらお止しな！それより今日から皿、小鉢は、いくら汚くなつても此方ぢやア少しも洗はずに置いて、皆あの馬に洗はせてやらうよ。」

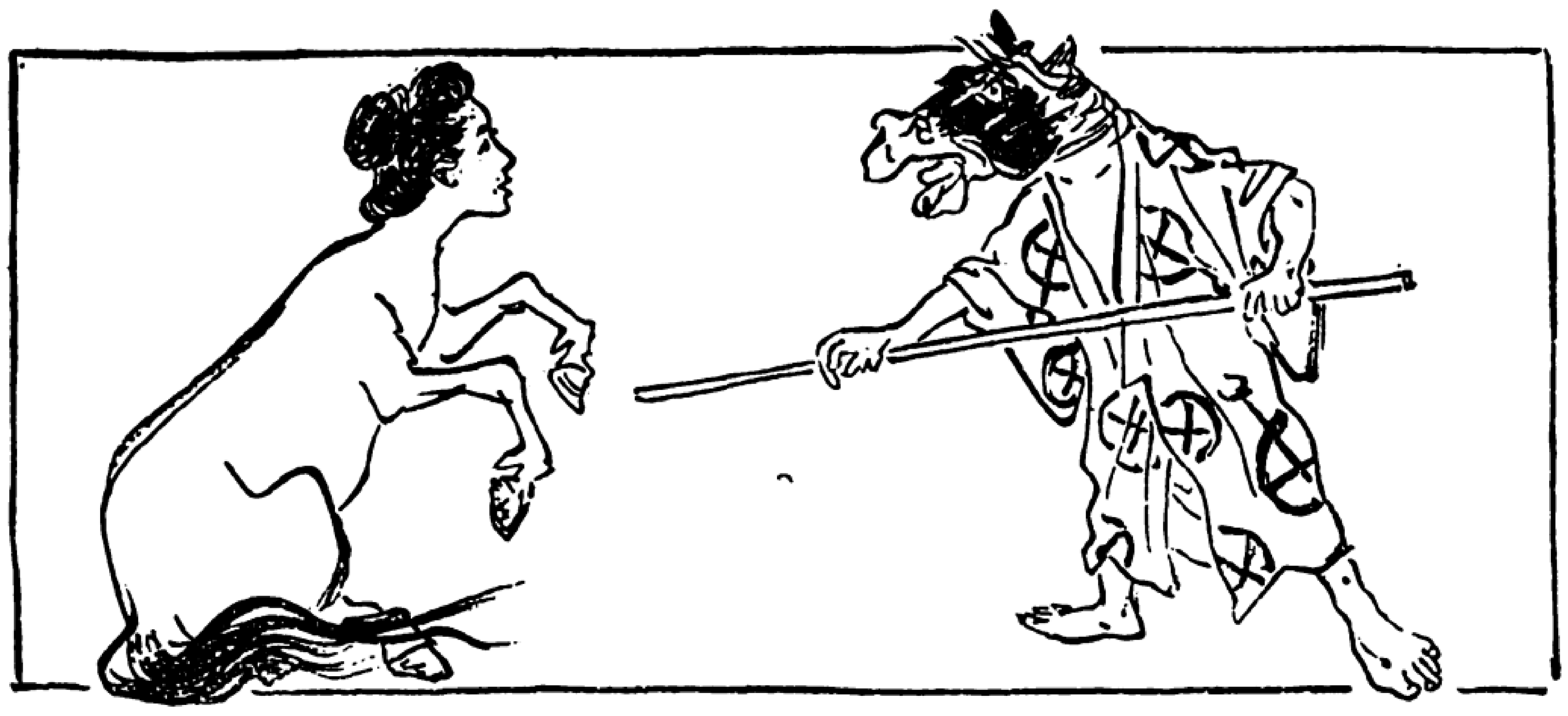
「でも、理由を聞いて見ちやア、そんな事は出來ないからねエ。」

と、二人の女中は氣が合はず、お互ひに膨れた顏て、その日はまるで口も利きませんでした。

けれどもお綱は、馬の裸なのが氣の毒で成りませんから、丁度用の閑なのを幸ひ、精出して馬の春衣に掛りました。

それに引かへてお鞍の方は、何うせ馬が來て洗つてくれるものだと、果は自分達の茶碗や皿まで、汚れたまゝに臺所に置いて、馬の來るのを待つて居たのです。

すると、その夜の二時を合圖に、また馬の足音がして、ジャア〱、ガチャン〱と、水や皿、小鉢の音が聞えますので、「ソレ今馬が洗つておいてくれる、あゝ樂な奉公だ。」と、お鞍は平氣て寢て居



りましたが、やがて夜が明けてから、臺所へ行つて見ましたら、こは如何に？自分の茶碗は云ふまでも無く、主人の大切な皿、小鉢が、皆粉微塵に破つてある計りか、臺所の板間は、泥だらけの馬の足痕て、目も當てられない有樣です。

お鞍は眞赤に成つて腹を立て、

「おのれ憎い罰當奴！何だつてこんな惡戯をした。今夜こそ待ち伏せて居て、骨も何も此通り、粉微塵に撲ちのめしてやるぞ。」

と、午助の持つて居た六尺棒を持つて、夜に成るのを待つて居ました。

其間にお綱は、すつかり春衣を仕立揚げましたから、それを持つて馬の來るのを待つて居ますと、やがて例の時刻に成つて、馬は入つて來ましたから、お鞍はいきなり六尺棒を持つて、その頭から撲りました。

所がその六尺棒は、馬の頭に當るか當らないのに、ビシリと折れてしまひましたが、その折片がお鞍に當ると、見る〱中にお鞍の姿が、居ながら馬に成つてしまふのです。

不思議は是ばかりてはありません。この間にお綱が春衣を取つて、手ばやく馬に着せましたら、馬はその儘身を躍らせて、立派な人間に成つてしまひました。

重ね〱の不思議に、お綱も午助も呆れて居りますと、今一つ不思議な事には、昨夜あれ程損じてあつた、あの皿、小鉢や茶碗などが、皆元の通りの形に成つて、而も奇麗に洗つてありましたとさ。

めでたし〱！

「コーデリア」の性格

天弦

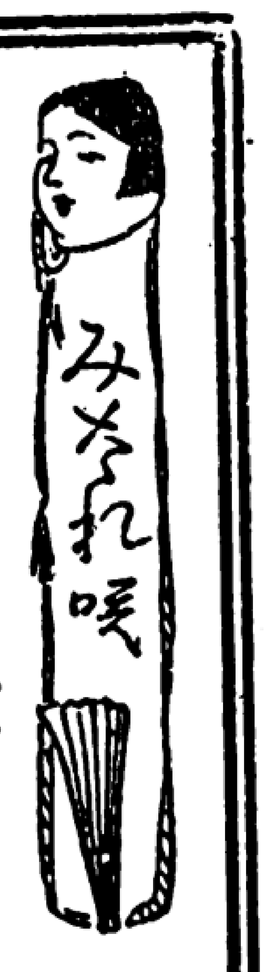
「シェークスピア」の四大悲劇の一といはれる「リア王」はさすがに作者が器量の圓熟したる晩年の作ほどありて、其味ひが頗る深い。

リア王が國務鞅掌の勞を厭うて、領土を三人の娘に分けるといふのが發端で、二人の姉娘は心にもない追從巧言を用ひて、やゝ老耄して識別の眼晦める父王から夫々分け前を貰ふ。季の娘のコーデリアは原來理想的な潔癖な性分の上に、姉二人の見え透いた世辭輕薄の嫌味も加はつて、季兒には眼のない父王の、お前はどれほど朕を思うてくれるかといふ言葉に答へて、私は子たるものゝ守るべき道ほどは盡す心得でござりますと、膠もなく率直にいふ。場合が場合であり、リア王はさぞ平生父思ひの、自分に氣に入りのコーデリアのとてあるから、二人の姉よりは、更に更に強い言葉て、父上の上を思つてゐますといふてあらうと待ち設けてゐたところであるから、この無愛嬌の言葉が一倍耳に快よからず響く。リア王は、國王として、人の子の父として、此の場合非難すべき點も多いが、コーデリアの言ひかたもまた餘りに手きびしく、あまりに露骨である。「リア王」一篇の悲劇がこのところに端を發して、結局コーデリアの悲慘なる最後に畢るのも、自然といへば自然で、自づから運命の恐ろしさを思はしめる。

コーデリア姫は父を思ふ心に於いて、眞實何人にも劣らぬ。而もコーデリアは眞實を愛し、眞實のために他を顧みぬとがある。至情は内に溢れながら、濫りにこれを言葉に現すを屑しとせぬ。至誠内に在れば、則ち足る、多く言を用ひて示すを須ひず、發すれば則ち直截、これがコーデリアの可と信じたところてあつたらう。コーデリアの所信は理想的て、至誠の念深く、道義の念厚く、眞實を愛する念強き人は、必ずまた斯く信ずるであらう。しかしながらこの所信は一個の理想てある。これを直ちに實行の上に運び來らんとするに於いては、尚幾多の鹽梅を要する。コーデリアが一方に於いて、あまりに理想的であつたといふとは、やがて其悲しき運命の主要なる一部を編み出したのであらう。

コーデリアには、正義のため、眞理のためには剛毅の精神を持して屈せざる東洋女性的、烈婦的性格がある。後年故郷英吉利の亂を鎭めんため佛國の兵を率ゐて陣中に在つたとから見ても、コーデリアの性格には烈婦の面影が在つたと思はれる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



野村望東尼の歌

（向陵集）

佐々木信綱

贈正四位野村望東尼は、福岡藩の女丈夫で、平野國臣や高杉晉作などを助け、僧月照の薩摩に下るのを家に宿し、三條公たちが太宰府に御出になるのを尋ねしたりして、女ながら國家の爲に勤王の誠忠を盡したので、六十の老軀で、玄海灘の一孤島なる姫島の牢獄につながれた女丈夫である。是らの事がらは維新勤王家の列傳に掲げられて、普く人の知つてゐる所であるが、世に未だ知られない半面の長所があつた。それは望東尼は德川時代第一流の女歌人なのである。望東尼は福岡なる大隈言道の門人で、此言道も其名は世に知られて居ぬが、眞淵蘆菴景樹曙覽などと共に德川時代を飾る歌人である。然るに言道望東尼の師弟ともに世人が其眞價を知らぬ故に、余はしば〳〵新聞雜誌等に二人の歌を紹介した。それで我竹柏會の社友なる弘田醫學博士は、望東尼の人格を慕ひまた其歌を慕つて、福岡から望東尼の眞蹟を取よせ數多所藏して居られる。然るにかつて大阪市長なりし鶴原氏の夫人は望東尼の子孫であるといふ事を弘田博士から聞いて、余は大阪に鶴原夫人を訪ひ、望東尼の遺稿遺物を見る事を得た。その遺稿向陵集一卷は尼が生涯の作數千首を美はしい筆蹟で書き留めてある。此一卷は實に文壇の寶とすべきもので、文學上の製作物は單に一己人の秘藏し所有すべきものでない、萬一此一卷が亡びたならば望東尼が生涯の半面は亡びるのであるから、文學の爲に、はた祖先への孝養の爲に、出版せられたならば宜からうとすゝめた事であつた。どうか一日も早く出版せられ世に公にせらるゝことを希望する。

つまり望東尼には男らしい強い意志と、女らしい優しい氣質との兩面があつたので、雄々しい半面は勤王の行となつて、同志の士が牢死した冥福を祈る爲に、指の血をしぼつてかいた血書の心經一卷が鶴原氏に殘つてゐる。優しい半面は其作歌にあらはれ、又押畫細工など手工の手ぎはなものが是も鶴原氏にある。

今日愛國婦人會の大久保君が彼の向陵集を持て來られ、君が久しく福岡に居られた緣故から、特に深く望東尼の遺物等の（撮影は追て「愛國婦人」に載せらるゝ由）人格を敬慕されて居るのであるが尼が事向陵集の批評とそが中の秀歌選出のことなどを求められたので、時に人々に話もし記しもした事をも取りまぜて、こゝにお話致したのである。

向陵集中の歌

一たびは野分の風の拂はずは消くはならじ秋の大空

消もせずもえたちもせてかやり火の煙いぶせきよのけしきかな

誰も皆波にゆらるゝうたかたのうきまとひは消ゆるばかりが

くれ竹のうきふししげき世の中はこの君と思ふ人なかりけり

へだてぬる世のうき雲の上までも思ふ心のとほらざらめや

さと川にあらふ蕪のなかれなを追ひ爭ひて行く家鴨かな

たか身にもありとはしらでまどふめり神のかたみの日本たましひ

七人娘

ウォーヅウォース作　脊山繁譯

一

アーチバルドの七人娘
みんな一人の母の子て、
むれつ集ひつ長き日を
遊び暮らすもうれしやな。
丁度七つの白百合を
絲で微して結んだ花輪、
七人娘のたのしひ親み。
さはさりながら父君は
戰さ好みの荒男にて、
やさしい娘あるなれど
やさしい心持たないで。
　かなしい河のピンノルは
　水音たてず浪たてず
　靜に澄みて影くらし。

二

西風吹きてそよそよと
たのしい時におそろしや、
名をきくだにもふるへたつ
エリンの海賊は海こへて
ピンノルさして攻めて來ぬ。
多きなる船よこづけて
酋長たかく笛ふけば
あらおそろしや一團の
荒くれ男髮たてゝ
眼をいからせて集ひより
手ふるゝものをかすめとる。
　かなしい河のピンノルは
　水音たてず波てたず
　靜に澄んて影くらし。

三

かくとは知らぬ七人の
娘はやさし樹の葉かげ
五月節句の雛のやうに
ならむて圓く座りけり。
不意に馳けきし人や馬
座を蹴たてゝ荒れ狂ふ。
あら哀れやな七人の
雛は左にあるは右
父を探せど父居らず
『父は』『父は』とさけびつゝ
海賊に追はれてからこゝ。
　かなしい河のピンノルは
　水音たへず波たてず
　靜み澄んて影くらし

四

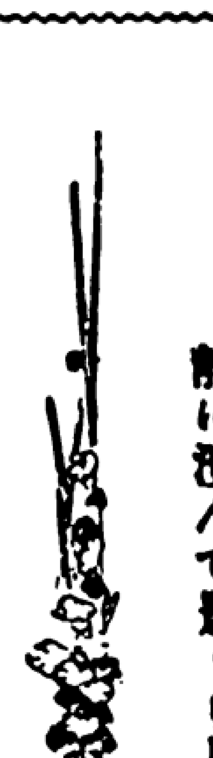
七人娘荊棘こへ
山を越ゆれどうたてやな
若き血潮に狂ふ海賊
大股ふみて追ひつゞき、
聲音もあらく高らかに
『やよ娘子よ逃るなよ
父は歸らじかへるとも
其時家は空虛ならむ。
やよ娘子よ逃ぐるなよ
やさしくはやく茲に來て
我等が髮を梳づれ』
　かなしい河のピンノルは
　水音たてず波たてず
　靜に澄んて影へらし。

五

吼ゆる暴風にちぎられて
みだれ飛び行く雲のごと
七人娘かうことて
三人二人と逃げ行きて
聲のかぎりに叫ぶやう
『否とよ、我等死なむのみ
七人共に死なむのみ』
斷涯すごくそびへたつ
湖のほとりにはしりより
七人どつと飛びおりぬ。
藍をたゞふる深き水ぞこ。
　かなしい河のピンノルは
　水音たてず波たてず
　靜に澄んて影くらし

六

深ゆる湖の流れ行き
せゝらぐ擧に小さなる
七つの島は浮び出て
碧の苔にみづみづと
まとへる衣をこうへに
操の色の常盤なり。
島のあたりを小鰭ふる
小魚互にかたるらむ
『哀しくも映つる島影や
淸らを競ふ七人の
娘しづかに眠る哉。』
　かなしい河のピンノルは
　水音たてず波たてず
　靜に澄んて影くらし



思潮

◎文學博士高瀨武次郎氏は雜誌界に於て「煩悶を以て進步向上の階段に利用せよ」と題して曰く近時我邦青年宇宙眞理の探求を企て之を得る能はず煩悶の結果遂に瀑布に投じて死せし者あり、其名は悲壯なるが如きも其實は愚の極なり、眞理探求の煩悶は進步の一階段なるべけれども若し耐忍力の乏しからんには或は自殺に至るをなしとせず、大疑ありて而後に大覺あるものなれば此種の煩悶は之を正當に導きて大に發達せしむべし（中略）古來幾千の偉人が終生探求して猶ほ發見し難き眞理を一青年の身を以て一朝之を悟らん欲するは已に自己の力量を知らざる者にして驕慢の所爲と謂つべし、且つ世の失戀的煩悶者が口を眞理探求に托するは實に憎むべきにあらずや

◎來四十五年大博覽會長に擬せられし金子男爵は實業の日本に於て亞細亞に對する貿易港こふ題下に次の意見を發表せり

曰く試に亞細亞大陸に於て貿易上に呑吐したるべき大港灣を見んか、支那の西南に香港廣東の二港あり、東方には上海、北方には營口あり。之に加ふるに今回新に我租借地となりたる大連あり又韓國には釜山、露領亞細亞には浦鹽斯德あり、翻て本邦に於て此勢に對しべき港灣を見る小樽港新潟伏木敦賀舞鶴長崎門司の諸港は一地方の貿易港たるを妨げざるも、對大陸の貿易港たるに適さざるなり、果て然らば何れに貿易港を求むべきか吾人は之を福岡縣博多港に求むるの外なきを信ぜず、北は浦鹽斯德、元山、釜山、西北に向ては大連營口、西に向つては上海、香港等と自由に交通すべく距離に於ても地理に於ても他に敵て比肩すべきものあるなし。（中略）又博多港は我對外貿易に關する要地として史上に昭々乎として傳へられつゝあり。昔は朝鮮支那安南呂宋等に對する貿易は皆博多に於て經營せられ又豐臣秀吉の征韓の役に兵站部を置かれ、博多の豪商神屋宗湛なるものは朝鮮輸送の糧食兵器を總て此の博多港を經由したり。又德川家康關ヶ原の戰功を以て黑田長政に所望の領地を擇むべきの命を下しゝ時、長政謂へらく干戈既に收り海内統一せり、今や我日本の經營すべきことは亞細亞に對する貿易に外ならず、而して對外貿易を擴張して帝國の發展を謀ぜんと欲せば亞細亞に面する土地を所領するの外なしと、即ち特に西陲の筑前を所望し、五十二萬石の盛附を有せるに拘らず、僅に三十萬石の筑前を得べるもの實に他日大に對亞細亞貿易を經營せんとするものありしなればなり。（中略）時勢は區々たる小規模を以て甘ずべき時にあらず、須く博多灣全面を以て日本の對亞細亞貿易に當つべき大港灣たらしむべきなり。徒らに地方的經營に放任せず國家百年の大計上より打算し、遠大なる規模を以て其計畫を決定し着々其步を進むることを清韓に於ける我帝國の發展策と云ふべきなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

梅雨(一等)

靜岡　石川類子

此頃人の口癖に、能降る〳〵といふを、ほむるとや思ひけん、雨はいよ〳〵日を重ね、をやみもなく降しきりぬ。池には蛙の時得がほに、鳴聲かしましく、いとどうたてきや。河鹿の如く稀に鳴ましかば、あはれ聞かまほしと、こゝの池、彼處の澤と、尋ねもせんを、降つゞく梅雨の雨の音に競ひて、耳つぶるる迄なくてそうたてけれ。

評　時代の風潮に對する頂門の一針とや云はん

同(二等)

山形　阿部さゐ子

此頃のくせとて、毎日の樣に、雨がじみ〳〵と降て居る、餘りにわびしく、入湯にとて、孫をつれて來て居る知人の許に遊にいつた、子供はすぐと私にだかれるやら、話の邪魔をするやら、大騷であつたが、いつかおとなしくなつたからどうした事かと、一間の中をのぞき見れば、丁度今日こられた、浴衣姿の父のうしろに居て、ぬぎすてられた洋服のカラーをくびにまきネ、クタイをかけ、兩手にはカフスをはめて、すまして居た。三人均しくどつと笑ふと、絲のやうに降て居た雨も、いつかはれて、雲のたえまより、お日樣がにつこりと。

評　樂しき團欒いとうらやまし

同(三等)

山口　河野梅子

花の色にたはむれし、彌生の空も時移りて五月雨降り初むれば、名殘の色の唯一ひらも見えずなりて、青葉の梢十重二十重に茂り合ひ、梅の實はこの雨を己が惠み深き母の來りしとよろこびつゝ、青葉の中にうちつとへば、雨はしとやかになていつくしみ、一入興を添ふめり。いづこをたづぬるも、小暗くして調子ひくき雨だれの音のみにて、靈ある萬物の長はそゞろ鬱氣に堪へも遣らず、折も折一入興がるは唯蛙のみ、其鳴くや千態の狀あり、餘音とてはあらざるも、自然の合唱は人も得學ばぬ計りなり、されど此聲も、人々の境遇によりては、憂しとも聞え樂しくとも聞ゆらん。

評　着想おもしろし

夏の旅

佐々木信綱大人選

天　靜岡　山内經子

夏やすみあすの旅路のたのしさをかたりかはして子等は寐にけり

評　子らの夢路は山をや越ゆらむ。海をや渡るらむ。やさしき母心やすらかにいひ出られたり

地　石川　小坂夏子

いにし年夫とやとりし旅やかた青葉がくれに眺めてそ行く

評　感深き歌

人　北海道　新保みつ子

水ぬるむ小田の稻葉のよるゝ日に涼しく見ゆる汽車の旅人

評　賤の女の心寫し得てよし

秀逸

學び舍のいとま得し子等ともなひて夏の旅路の樂しくも有か　靜岡　石川類子

木かけあれは汗おしぬくひ淸水あれはまたもむすひて行く旅路哉　山口　末田貞節子

いぢらしき物うる孤兒や夏の日にたびのつかれか面やつれ見ゆ　靜岡　萩原さだ子

梅雨の雲のはれまに不二見えてけふの旅路はたのしかりけり　大阪　金田ひさ子

道連となりてわかれし菅笠にふたゝひあひぬ淸水木かくれ　岡山　武田須磨子

かりそめのたひにしあれと古里に似たる青葉の村なつかしき　同　同

夏休なかき日數をたひねしてあそふも親のめくみなりけり　靜岡　彦坂淸子

うれしくも淸水みいてゝ松かけにゆきなやみたる足をやすむる　大坂　今井京子

母上をいたはりなから旅やかた語らふ庭にひくらしの鳴く　石川　小坂夏子

いかはかり急く使の人ならむ涼しきかけに立ちもいこはす　北海道　河内りつ子

評　旅の意は少し淺けれど

甲

さなとめかはたらくさまの身にしみ一行にあせいづる汽車の內哉　三重　小島駒子

こゝろさすうまや遠し朝風のすゞしきほとにみちないそかむ　群馬　伏島たき子

あつき日なしのきに來よと病みし身に共の愉の旅そ嬉しき　靑森　大湯信子

一人なれば心のまゝにいこひつゝゆく手凉しき夏の小木曾路　福島　篤田よしの

榛散る山の下蔭小暗くて螢火見つゝ行く旅路哉　鹿兒島　帆北初野子

たまさかに古郷の母にまみえんと夏の旅路もたのしかりけり　岡山　淸水梅子

歩みては木の下かけにいこひつゝ道はかとらぬ夏の旅哉　靑森　田島正子

夏の旅ひるの暑さはたへれともゆふ風凉し坪坂のやと　靜岡　萩原ふみ江

草鞋うる翁と踏り岩かけにあつささけつゝくむ淸水哉　栃木　中村ひさ子

昨日買ひし扇破れて又かへぬ汽車の旅路のむしあつくして　靑森　留目和歌子

まかね路を走る車の旅なれは夏なうしともおほえさりけり　三重　四山ひさゑ

旅なからまつおもふな母君はいかにますらん今日のあつさを　福島　篤田よしの

暑さ避けに行く旅ならむ汽車の內に都の人の多くのりたる　山形　阿部さゐ子

夏の日の旅の山路にうれしきはきよき泉のなかれなりけり　北海道　佐多益子

のりあひしとなりの人と語らへはさす方同し大磯のはま　愛知　湯淺とよ子

時のまに十さと百里走り行く小車さへもなつはくるしき　靑森　まさ子

夏ひきのいとまを京にたひころも名にけふ加茂にすゝみして見ぬ　東京　中隈富士子

乙

夏の日の暑さを添へて鳴くせみのこゑにすゝまぬたびの山越　山口　末田貞節子

ほとゝきすうきに鳴くかもなく聲をうしとききしか夏のたひれに　東京　岩根登司子

ゆらくうちにちふさはなしていれし子をあふきつゝゆく旅人やたれ　石川　廣野すて子

磯に貝拾うて野邊に百合折りぬ妹か待つらん旅路のつとに　靑森　吉田安子

汽車に乘る都詣ての一群は夏袖よろき九人の媼　同　同人

われのみか人もたへかぬるあつさをはしのきつゝゆく旅はくるしき　鹿兒島　藤野錠子

都路へかしまたちしてこの夏はめつらし方へ夕凉しぬ　同　同人

たひまくらあつさもいとゝ身にしみてねられぬまゝに蚊のみきこゆる　愛知　神林蓉榮子

まなひやの夏の休みにかへる子をむかへかてらに遊ふ都路　京都　池田榮登

波の音きゝつゝ友と歌かたり樂しかりけり旅の夜に遊ふ　東京　麻生緻子

くさまくら旅のかりねのゆめさめて夜汽車のまとにかせそすゝしき　長野　高橋きよ子

都への暑さわすれてあちこちと昔しを偲ふ鎌倉の里　京都　山本千代子

開けゆくみ代の惠やうきなつに千里の道もまたゝける間に　同　同人

たちちれのみ寺まうてにともなひていそかぬたひや夏のきそ路　栃木　岩根都奈子

堪へかたき路の暑さのつかれをもやとにわするゝ夏の旅哉　長野　葛原梅香

しら玉の露もまたひぬ朝またゝ夏の旅路の心地よき哉　三重　小島駒子

日さかりをいこひすこしてなる神のおとを山路にきくそわひしき　群馬　伏島たき子

此の夏も暇たまひし嬉しさは古郷をとふ汽車のうち哉　靑森　大橋八佐子

むしあつき夏の旅路もたのしいれ古里いそき歸る友とち　靑森　三上秋子

むしあつき夏の日中も忘られて熱海箱根の旅は嬉しき　靑森　大橋りや子

暑き日もいとひもあへす學びにと思へは樂し夏の旅かな　靑森　三上八重子

なる神の音はけしくもふる雨にせこか旅路の思ひやらるゝ　岡山　淸水梅子

すゝむ世の幸そ嬉しき夏の日もあつさをよそに眞金路の旅　靜岡　萩原さだ子

夏旅はうきものなるにすゝむ世のあつさわするゝ眞金路の旅　靜岡　萩原ふみ江

しけりあふ夏のゆく手の草まくら結へるゆめもふるさとのそら　三重　中島千萬子

旅ころもいこふかけなき夕たちにゆくていそけと袖はぬれつゝ　三重　中島かつ子

夏の日の朝夕そよく凉風はたひする人のいのちなるらん　岡山　西村長子

車さへかよはぬ里にさまよひて夏の旅路を夕ぐれの空　三重　莊司種

夏の旅まとろむ夜半に夢さめて聞もすゝしき風鈴の音　同　同人

夏の旅明け放したる汽車の窓聞も嬉しき早乙女の唄　同　同人

なちこちにせみなきしけるうまやちをあせぬくひつゝたひ人のゆく　三重　阿部秀子

夕けむり見て立つ夏の長旅路道行きつれそしたしまれぬる　三重　四山ひさゑ

いひしらぬ夏の暑にほと近き旅路も遠き心地こそすれ　愛知　石川南江子

たへかぬる暑さにしはしやすらへは木かけ立うき夏の旅哉　同　同人

風どほる松の木影の岩淸水しはし休まん打なかめつゝ　栃木　檜山いつ

道つれの學ひの子等とかたりつゝあゆめは忘ろ夏のあつさを　栃木　檜山ちゑ

長々の夏の休暇に學ひ子は何れのやとゝ夢結ふらん　岡山　藤波音子

淸水わく木の下蔭に休らひて知らさる人も友となりけり　鹿兒島　帆北初野子

なつやせの老もやすけく旅すなり汽車にくるまにある世なりせは　北海道　足利つゆ子

參詣の帽子涼しくいたゝきて身かるにいつる夏の旅かな　北海道　小野寺ちとせ

なつかしき師のみともして友とちと海邊とひなは樂し

からまし　京都　渡邊豐子

俳句

內藤鳴雪大人選　暑　夏の山　蟬

天　遠山の眼にかすかなる暑さ哉　德島　中川龍子

地　夏山の葉守の神の涼しさよ　北海道　三上はる子

人　草枕眠むられぬ夜の暑哉　東京　栗原花園

○

砂山の砂の輝く暑さ哉　福岡　杉山光子

流れある里こそよけれ夏の山　德島　中川龍子

夕雲の風筋見せて蟬しぐれ　三重　莊司種

夏山に風に筋ある木立哉　同　同人

繪團扇の風なまぬるき暑さかな　京都　渡邊豐子

蟬ないて夕日にわかき杉林　福岡　杉山光子

巖の上に大蛇の骨の暑さ哉　愛知　[illegible]部はつ子

夏山の雨ふり過ぐるながめ哉　靑森　山島正子

篁吹きし足から山や蟬の聲　岡山　淸水梅子

おとなへとみな難避して若哉　山梨　中川うめ子

鶯のこゑもまだして夏の山　靑森　田島正子

歸り來る我が家は近し蟬の聲　京都　堀つき子

柴栗の花のみ白き夏の山　山口　末田貞節子

寐つ起きつ何事もせぬ暑さ哉　長崎　小野なみ子

花さける楠もありて夏の山　山口　末田竹子

しめはりし一本杉や蟬の聲　京都　堀ちくさ

お釋迦樣の國かと思ふ暑哉　三重　西山ひさゑ

蟬なくや日向に干しゝ蛇の目傘　三重　西山數子

水打ては石に湯氣立つ暑哉　東京　淸子

城趾に朽ちし祠や夏の山　山形　芳賀ます

蟬なくや木影傳ひに乳母車　三重　四山ひさゑ

夏山や白帆見て居る松のかげ　東京　彥坂たき子

瓜蔓の畑這ひ廻る暑さ哉　三重　西山數子

靈廟堂は閉せしまゝや蟬の聲　東京　栗原花園

病してむし暑き日を蟬の聲　鹿兒島　帆北初野子

夕立の來るを待つまの暑さ哉　山口　末田貞節子

富士の雪とけたるらしき暑さ哉　山口　末田竹子

蟬なくや雨を願ひの神詣で　東京　彥坂たき子

道傍に怪しき僧や夏の山　愛知　中川ふみ子

鬼瓦の焰吐くなる暑さ哉　愛知　磯貝さわ子

夏山を下れば明き田沼哉　福岡　杉山光子

東山に夏の休みを登りけり　京都　山本千代子

水音を打消すはかりせみの聲　東京　中隈富士子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

女鉢の木

大島光利

天明四年三月二十五日江戸城板目の間に於て、時の若年寄遠州相良の城主田沼主殿頭意次の倅、山城守意知を唯一刀に斬捨てました、徳川の旗本新御番役佐野善左衛門正善の妹に秋女と云ふがございました。性來の女丈夫にして、殊に詩歌管絃の嗜みあり、武藝は靜流の薙刀を能し、恰も我が愛國婦人會の首唱者たる故從七位奧村刀自に宜く似た處があると思ひまする。當時田沼主殿頭は四萬五千石の大身となり、倅山城守も若年寄に任ぜられ、其權勢旭日の昇るが如し、然るに幕府の昔は如何に出世致しても、家系の正しからざるを武家第一の恥辱といたしました。その田沼主殿頭と申すは、紀州和歌山在牛蒡村の出生、前名仙右衛門と申しましたが、才智衆に勝れたるを以て、一代に御老中にまで昇りました。されば何卒相當の御系圖が欲しいと思ふ折柄、恰も好し佐野善左衛門の家名なるを聞て、之を手に入れんと考へました。依て佐野の一族龜井五郎と云ふ者に恩義を着せ、此の者より申込せました。善左衛門性來正直にて請はるゝ儘に之を貸與へたるに、其後何程催促すれども返却いたしません、餘の邪なに自から田沼の邸に赴き、系圖返却を申入ますと、取次の者は冷かに打笑ひ、善左衛門の面體を凝視め、貴殿の御心は正氣であるか、當家に於ては他家の系圖を借用して何にする、夫は門違ひで御座らうと云ふ案外な一言。善左衛門烈火の如く憤り、借こそ今日まで延々と成しは、士民より出し田沼家なれば、清和源氏の嫡流たる佐野の系圖を奪はんが爲なりしかと、頗る肅々に談判をいたしましたが更に要領を得ません。果は大勢かゝつて暴力に訴へ、亂心者として玄關より突出しました。此頃ほひの御老中は實に勢ひ廣大なもので、小身の善左衛門は抵抗する力なく、怨々呑んで其儘吾家に立歸りました。爾來田沼親子に注意しますと、天下の政道を私し、役目の責任と云ふ事を思はず、上に媚び下を輕んじ、正義公道と申す事は毫末もございません。されば家を捨て身を亡ぼしても、天下の惡人を斃し、君側の佞奸を除かんと決心いたしまして、子まで成たる妻は、無理な理窟を付て實家に返し、雇人には暇を遣はし、後難のかゝらぬやうに準備をいたしました。いよ〳〵田沼父子を一刀の下に斬捨て、國家の災ひを除かんと決心の臍を堅めたる時、妹の秋女は兄の事動を見るに、折々兩親の佛前に向ッて殊勝に回向するなど常ならざること多く、心もとなきまゝ、兄の書齋に來たつて手を挾へ、秋「兄上には此頃何となく御顏の色が勝れ給はず、殊に姉上の御心優しくて一家の取締も御屆きあそばし、何一つの落度もなきに、夫を御實家に御戾に成りましたは、何か深き仔細のあると、晝夜心を痛めて、陰ながら氣遣ひ居りまする。女は口のさがなきもの、何か秘密の御企、世間に洩ては叶はずと、御心遣ひもございませうが、神に盟うて他言はいたしません、私も天下の直參佐野の女、脆弱き女の身なればとて、心は決して男子に敗は取りません、何卒仔細を打明て下されよと、淚を押へて申し入れます。

默然たりし善左衛門溜息をつく〳〵顏を擧げ、妹の方へ徐に回看り善「秋、能う云つた、此期に臨んで我が胸中を打明んと思ふは、天下廣しと雖も其方一人より他にない、今兄が申す事を必ず粗暴なり過激なりと聞いてくれるな、世に武士の意地ほど辛いものはない、例へば誰も知つて居る、赤穗の騷動、內匠頭殿、殿中に於て鞘を拂ひ狼藉せば、對人を討つ討たぬに拘はらず、家斷絕位の事は御存じなき暗君ではない、然れども武士の一分相立ず、退引ならぬ手詰の場合、事茲に至つたのぢや、「徒らに千代經んよりも呉竹の世に拔出てし一節もがな、」古人の詠だ歌の通り、兄は新御番役として殿中に兩刀を帶む身分、何時殿中に於て不時の出來事があらうも知れぬ、若も如上る場合に遭遇したるを聞きなば、據なき事と諦めよ、啻に私の意趣にあらず天下の爲に奸を除き邪を討のである、我家を失ふは祖先に對し不孝とは知れども、是も亦武門に生れた身の悔むも詮なし。然しながら若し我が天下に對する微忠が貫徹致されば、終生の怨みなれば若し然樣の場合には、何とかして手段を齎め、天下副將軍たる水戸中納言治保卿の御傍に近寄り、兄の身の上を演て、豫て認め置たる此の文書を御手元に差出しくれよ、是我が頼みてあると、善左衛門妹の手を取つて瞬きもせず面體を打眺れば、流石女丈夫の秋女も思はずよゝと泣仆れ、秋「偖は私の推量通り其迄まで御決心あそばしましたか、脆弱き女の身を以てさへ、殘念に存じて居ります、玉となりて碎くる御覺悟、御最もに存じます。私は惜からぬ命を暫し永らへまして、貴下の御志は乾度遂げさせませう、後に心を引されず、十分の御働きを願ひます。善「アヽ能く申した、古歌にも「武夫は名こそ惜しけれ末の代に聞つぐ人も語りつぐ迄に」妹……天下を惜み名を惜む兄の胸中察してくれよ、と云ひつゝ、背を撫擦れば、思はずワツト泣沈む、戀にはあらで兄弟の、熱き思ひの折柄に、煮沸る湯釜の松風の、音に氣付きし善左衛門、互に顏の見をさめも遣らずと、釜に向つて自から柄杓を取り茶を立て、互に服み、其翌日殿中に出てましたが、留守を預かる秋女は心も心ならず、神前に燈明を捧げ、佛前に香華を供へ、兄の首尾は如何ならんと、一時千秋の思ひで待受居りまする。彼是未刻少々過る頃ほひ、門外の方に響く足音けたゝましく駈來たるは新御番の同役其他知己の誰某、〇「頼むと訪ふするどき聲も常事ならず、秋女はしとやかに取次ますと〇「之は御介妹か偖々殘念な事が出來いたした、今日殿中にて善左衛門殿若年寄田沼山城守殿を物の見事に斬て棄られ、直に揚り座敷へ差送られた、實に容易ならざる事故、取敢ず此段御知らせにまゐつたと、聞いて秋女は更に驚く容子もなく秋「ハイ偖は兄が然樣の事を仕出かしましたか、皆樣も御存じの日頃內氣の性質、よく〳〵の事であらうと思ひます、何う云ふ容子でございましたか御存じだけ御話下ださいまし。山上と云ふ若侍は目の色變て前へ進み山「お秋どの其沈着きはらつた顏色は貴夫正氣ぢやあるまいと思ふ、善左衛門殿は死罪に處せられるは必定、御當家は斷絕なるぞ、如何なる遺恨あるか知らぬが、山城守殿御城坊主を連て御下りの時に、善左衛門殿御立の背後より跳り出て、山城待てと大喝一聲、云ふより早く拔打に、肩口二三寸斬付けに、山城殿は敵はじとや思ひけん、轉つ輾つ一散に、板目の間指て駈入んとするを、中より大目附松平對馬守殿狼藉者を入れまじと、杉戸をハタト締切つて、老人ながら大力、シッカと戸を押へ付る、田沼殿は氣も狂亂、杉戸をガリガリ引掻て、山城でござる御開け下され、山城でござると、聲を限りに喚はる處へ、早くも善左衛門殿追かけ來り、山城覺悟と云ひつゝ水もたまらず斬て棄られましたと申すことて、程經て拙者ら容子を見ましたが、暫くあつて對馬殿杉戸を押排き、偖は山城殿でござつたか、御迷惑なく御入りなされと、息の絕たる田沼殿に對つての御挨拶、由ありげなる其場の容子。いづれ後日上より御調べがござらうと、語るを聞いて秋女は嬉し淚と悲さと一時に混上げ來るを眼遮に止め、其後上の成行を見て居りますと、上役人は善左衛門の今度の所爲、天下の大法を破ると雖も、奸を除き君側を淸めんの心事を思へば、氣の毒千萬、聊かなりとも佐野の家は建さんとの仁慈ある有司の心なれば、山城を斬し時は亂心せし事ならんとの尋問でありました。善左衛門は只頭を下げて、國家を大切に存ずる大丈夫に亂心すべき謂はござらぬ、何事も君を思ひたる拙者の所爲、御賢察下だされたしと、遂に佐野正言は切腹と云ふ御沙汰、「一聲に恨みははれつ時鳥」と一首を詠じて相果ました。遺骸は淺草德本寺に葬むりました。其石碑の傍に今も馬頭觀世音の碑がございます。之は善左衛門の愛馬が田沼の邸に買入られて山城の倅良助と云へる七歲の小兒を彼の馬が蹴出て飛かゝり、グサとばかりに咽喉に噛つき、其儘飛出して、德本寺に來り善左衛門の墓前て死にました。是等の奇異を聞したる秋女は、萬難を排して水戸公に接近し、兄の遺志を繼で、田沼の罪狀を訴へると云ふお話は次號に。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

◎皇后陛下、東宮妃殿下博覽會へ行啓　皇后陛下には七月十日降雨をも厭はせられず女官以下供奉にて東京勸業博覽會へ行啓第一會場正門にて會根審査長以下の奉迎を請けさせられ貴賓館に入御夫より會根總長、千家會長の御先導にて第一會場より順次御遊覽の上御還啓あらせられたり、東宮妃殿下には其翌十一日前日陛下の御見殘し遊ばされし各館の陳列品を御名代として御巡覽前日の通り奉迎を請けさせられ御機嫌麗しく御還啓遊ばされたり

◎內親王殿下博覽會へ御成　高輪御用邸に在します常宮、周宮兩內親王殿下には七月十二十三の兩日東京博覽會へ成らせられ各官御供奉御巡覽あらせられたり

◎大日本婦人慈善會　京橋區築地なる同會は今回貧民教育に關する資金を得んが爲め慈善演劇會を起すとの由今趣旨書の大要を左に掲ぐ因に云ふ同會は板垣伯爵夫人等百數十名の發起にて板垣伯爵濟沛男爵下田歌子の三氏其顧問たり

國に不學の兒童無く、家に不文の子弟無きは文明强國の誇りとする所なり、今やわが日本帝國兒童の就學數は實に百分の九十五、六分二厘に達するを得たりと雖も、不就學猶四、三分八厘を占む而して其多くは貧民の子弟なり畏くも聖明なる　陛下上に在しまして去る三十七八年の役の如き國家未曾有の大事なる秋に當りても　陛下は「軍國多事の際と雖も教育の事は忽にす可らず」と詔らせ給ひき而して此戰捷の後、太平の今日に於て陛下なほ國民の義務たる普通教育たも受くること能はざる者あるは光明なる社會の陰影に非ずや、然らばすなはちこの憐なる貧民未就學の子弟に對して宜しくこれを收容すべき學校の設備なかるべからず、見よ現今女囚の多くは無學の徒なりと聞くに及びていかに教育の大切なる乎言を俟たずして知るべきなり、抑も下民の罪惡は其無學より生ずること多し然らば悲しむべきこの罪惡を減少せしめんとするには唯だ其れこれを教ふるにある而已
大日本婦人慈善會なるものを組織し貧民教育に關する資金を得んか爲に慈善演劇會を起さんとす希くは江湖同感の諸君われらか微意を助け以て目的の彼岸に達せしめられんことを

◎近衛公爵家の獻上　同家にては三百年前より引續き慣例として七月七日七夕の節句に秋の七草を籠の形に作りて宮中に獻上せらるゝ儀式ありて維新後一時中絶したりしが、去る三十七年より再興せらるゝこととなり本年も去る七月七日儀式に慣ひて作製して獻上せらる由

れたる由

◎癈兵、遺族者に對し施療開始　休職陸軍三等軍醫正大澤留三郎氏及齒科醫齋藤英三郎の兩氏は本會の趣旨を贊成せられ癈兵並に同家族、遺族者に對し牛ケ淵公園所在東京支部又は右の幹事部の紹介の下に醫術施療を開始せり詳細は同所に就き承合せらるへし

◎蟇の利用　蟇なる者は形狀醜る奇形にして其分類界して獸類か虫類か何れに屬するか判定難き者にて曾て內地より外國へ輸出したる時或外國の港では關稅を課するに當り獸類と決したりといふ兎に角一見すれば餘り心地のよくはなきものなるが、文明の進歩は是れ等の物すら利用せらるゝ時代となれり。吾國にて製革業家として名聲ある日本橋區の內田直吉といふ人は此蟇を利用して多大の利益を得たり其の經過の端緒は去る廿九年の夏頃同人が大阪に赴きたるに其際同地は彼黑燒問題起りて總ての黑燒販賣を禁ぜられ同市の和漢藥種商某の如きは黑燒の材料として蛙の乾したる物一萬疋程を所持して其始末に困り居たるを見たる氏は年々海外より少からぬ種々の革を輸入し殊に袋物の材料として高價の鰐革を取り寄せ居るより偶然にも蛙の革を以て鰐革に代用せんと思ひ其一萬疋を買取り製革せしも失敗に終り爾來辛慘の苦を積み三十四年に至りて漸く好成績を現はし三十七年始て海外に輸出を試みたるに案外に好評を得一ケ年間に十三萬餘枚此金高一萬二千圓を算するに至れり爾來一層製造に力を入れ年々增加を見るに至り最近の輸出高を示せば三十九年九月より本年三月迄七ケ月間に於て早くも廿五萬枚此代金二萬一千圓に上り本年四月より十二月迄の製革豫定高四千萬枚は既に豫約濟と云ふ盛況を呈せる由にて吾國前途の輸出業として頗に有望なるの事業とはなれり因云ふ內地に於ても日を追うて流行を來し貴顯紳士の間に愛玩さるゝの趨向となれり今後蟇の播殖法に付益々研究を必要とすることゝなるべし彼の天竺德兵衛の如き神として祭り又は商標等に用ゐる事ともなるべきか。

〇新刊紹介

◎家庭要鑑（河野正義氏著）本書は婦人の家庭に於ける責任の重大なるを叙し大いに婦人の自覺を促すに緊切なる著にして而かも專門女子教育の實驗なる諸說はあらゆる方面に亘れる母としての務と妻としての務とを說くに於て遺憾なし（神田區駿河臺南甲賀町十東京國民書院發行定價貳圓五拾錢）

◎理想の母（內外出版協會代表者本下祥眞氏著）本書は　の原書を譯したる者にして行文見るべく說亦高尚にして一家の主婦必讀の要あらん（本鄉區駒込西片町十內外出版協會發行定價貳拾五錢）

◎家政科夏期講習會　東京女子教育會（神田區錦町三ノ一）にて八月一日より二十日迄開催す講師は左の如し　幼兒教育和田實　家事（未定）　洋服裁縫伊澤峰子　國語平田盛胤　文學士櫻尾治　衣服整理松下寄三

○水彩畫講習會　春鳥會（小石川區關口駒井町）にては八月二日より十五日間大阪天王寺桃山中學校に於て開催す

◎語學夏期講習會　語學協會（小石川區原町一五一）にて八月五日より毎日午前中約二時間宛東京外國語學校講堂にて開催す

◎女子農藝講習會　大日本婦人農藝會（赤坂區溜池町一大日本農會內）にて七月廿五日より向三週間毎日午前四時間宛（日曜は休會）開催横井博士外十數名出講する由

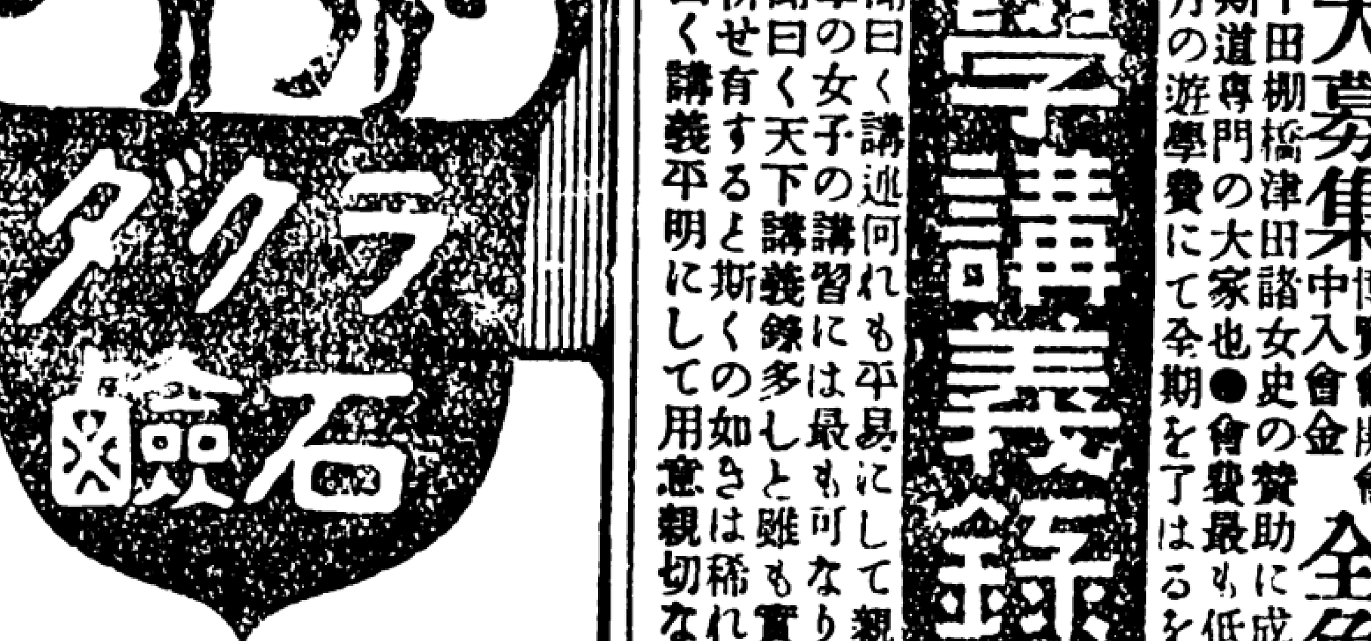
於東京勸業博覽會

各女學校御用
美術造花材料
附屬品並ニシホン
造花器械類一式
東京市日本橋區横山町壹丁目十六番地
天野卯兵衛
電話（長）浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

…………切取線…………
◎營業目錄御入用なれば此切取を添へ御申越被下度候（愛國婦人）◎
縣　郡　町村

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五旬間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す
定價　大形廿錢　小形十錢
芳香藥種問屋　東京日本橋區本石町三丁目　本舖　井上太兵衛

第四回新學期開始
會員大募集　博覽會開會中入會金全免
文學講義錄
●本會は下田棚橋津田諸女史の贊助に成り講師は皆斯道專門の大家也●會費最も低廉都會一ケ月の遊學費にて全期を了はるを得
●中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり。
●報知新聞曰く天下講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也
●都新聞曰く講義平明にして用意親切なり
父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ケ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します
●規則書申込次第直に進呈すべし●
大日本淑女學會
東京神田南甲賀町十番地

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場
パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が需求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。
タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。
高峯氏發見消化新劑
完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、每瓶强度均一にして、又其效力永久不變なり。
醫師及藥舖諸彥！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す
代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

●難病の福音
院長ドクトル　松井滋雄
患者入院隨意
最新根治療法　喘息　其他數年に渉る慢性の痼疾を短日月にして知根治再發せざらしむ委細は福音を見てる可し
●郵券參錢封入送アレ直ニ進呈ス
東京日本橋區元大工町十五（電本一四二二）
松井血液療院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三回女子農藝講習會規定

一 會場　東京市麹町區土手三番町廿一番地（市ヶ谷見付内）女子商業學校

一 科目及講師　左の如し

一 園藝
一 農業汎論
一 家庭農産製造
一 養豚養鷄養蠶
一 土壤肥料
一 家庭看護
一 農産料理
一 組合
一 農業倫理

農學士 原熙
農學博士 横井時敬
農學士 齋藤萬吉
農學博士 澤村眞
農學士 久保健磨
農學士 大工原銀太郎
錦秋女塾長 秋間爲子
東京女子美術學校割烹教師 三枝富吉
農學士 有働良夫
文學士 阿部庄二

一 日時割　科目の日時割は左の如し（但講師の都合にて多少の異動を生ずる事あるべし）

園藝（自七月廿五日至七月卅一日 十二時間）
家庭農産製造（自七月廿五日至同廿七日 六時間）
養鷄（自八月五日至同七日 六時間）
土壤肥料（自八月一日至同三日 六時間）
農産料理（自八月七日至同十三日 十二時間）
農業倫理（八月十四日 二時間）
農業汎論（自七月廿九日至同三十一日 六時間）
養豚（自八月一日至同三日 六時間）
養蠶（自八月八日至同十二日 八時間）
家庭看護（自八月五日至同六日 四時間）
組合（自八月十三日至同十四日 四時間）

一 會員　女子に限る（但座席に餘裕ある場合は特に傍聴生として男子の聽講を許すことあるべし）

一 會費　無料（但料理科を修むる者は材料實費を要す）

一 會場費　一人三十錢を要す

一 證書　講習修了者には講習證書を授與す（但實費金拾錢を要す）

一 申込　入會希望者は住所職業姓名及希望科目（全部又は何々）を明記したる書面に會場費參拾錢を添へて本會事務所に申込あるべし

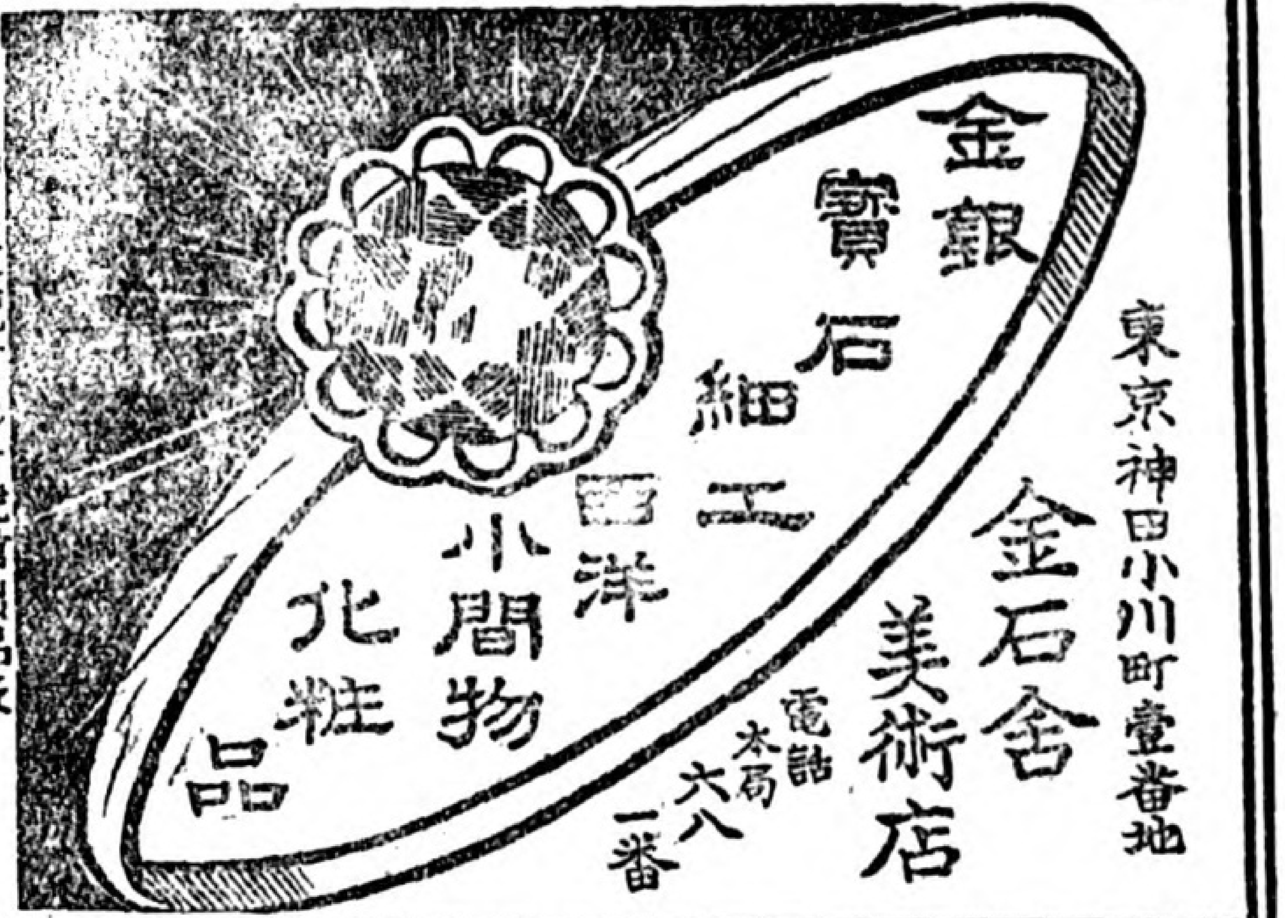
一 參觀　會員には時間の許す限り左の各所を參觀せしむ
農科大學　農商務省種畜所　西ヶ原農事試驗所　蠶業講習所　大隈伯酒井伯園藝場　女子大學實業部
尚新宿御苑の拜觀をも願ふ計畫なり

一 宿所　地方より出京の會員には希望により宿所として本郷區元町二丁目四十八番地錦秋女塾を紹介す

東京市赤坂區溜池町一番地大日本農會内
大日本婦人農藝會
電話新橋六七番

○乳母を求む

某女子教育家の家庭に乳母を求む、二十歳より二十六歳位までの健康なる婦人にして。望みの方は、出産の月と共に姓名を愛國婦人發行所まで通知あれ



東京勸業博覽會第一號館出品及不忍池畔辨天祭賣店
東京神田小川町壹番地
金石舍美術店
電話本局六八一番

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋（三〇〇番 一五三〇番 三一九三番）
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花（一九〇一番 三二七四番 三五〇八番）
一 定期預金　六ヶ月以上年五分
一 當座預金　日歩七厘以下
一 特別當座預金　同　壹錢

諸官省御用
確實 製造大販賣 御小賣
蚊帳夜具 夏冬ざぶとん
●品質保險附●正札引なし●縱覽御隨意
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局二一〇八
市内無賃配達

博覽會賣店
矢田出張店
不忍池畔雪見橋近傍
商標御注意
市内無賃配達

下山高橋二博士指導製造
クレソール石鹸　定價 大壹個金拾五錢 小壹個金八錢
洗濯用鹽水石鹸　定價 棒製壹本金貳拾錢 型打壹個金四錢
東京日本橋區本町三丁目
三寶堂

暑中御進物品御案内
最上清酒

世界長清酒壜詰（一合二合四合一升 一打以上化粧箱入）
米國産干葡萄箱詰（五十錢より以上各種）
同角砂糖箱詰（大小各種）
御園の初雪（美麗箱詰 衛生菓子）（廿五錢以上各種）
新着レモン飴（五拾錢以上各種）
其外滋養菓子（罐詰 折詰 各種）
西洋酒類（提籠入及箱詰各種）
其内外食料罐詰食器具薬味類
其他御進物適當品種々取揃へ置き申候間多數の内より御用品の程奉懇願候
東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
發賣元 高橋 世界長商店
電話浪花一五六一番
東京勸業博覽會貳等賞牌受領

藥品之純良

醫家處方調劑

醫師ノ處方ニ係ル調劑ハ極メテ親切丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス當藥局ハ既ニ久シク大醫諸先生ノ信認ヲ辱フシ尚東京郵便局ノ指定調劑所タルノ光榮ヲ有ス藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ係ハル調劑ハ必ズ藥局主任之ヲ擔任ス

神田區今川小路電車停留場前
尾澤純良堂
電話本局一五一八番
藥劑師 大西橋三
藥局主任藥劑師 田中利弘

調劑之精確

久邇宮妃殿下賜御買上之榮

大瓶壹圓八拾錢
小瓶四拾錢
東京日本橋區米澤町一ノ一
鳳舞堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常磐橋内）
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 四一番 三七番 （特）一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 # 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區[illegible]
株式會社 第三銀行
電話浪花四四二番 浪花四五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金手數料
其他銀行一般の業務取扱便宜可取計申候

袴乃親王

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃礒本店 電話浪花二八五九番
小賣部 本郷區本郷五丁目 美濃礒本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃礒淺草支店
日本橋區佐内町 美濃礒佐内町支店
神田區小川町 美濃礒神田支店
深川高ばし際 美濃礒支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

於東京勸業博覽會
一等賞牌受領
東京淺草茅町 香取屋本店 長電下谷一一九二番

東京勸業博覽會二等三等賞及褒狀受領
一三味線
一胡弓諸樂器
一附屬品一式
蓄音曲本
當店ハ常に實驗方の注意を屆ふせり
東京神田鍛冶町 菊屋總本店 電話本局二四四九番

芳香 むしよけたんす香 東京三省堂謹製
○是は貴き御輿の御用品で此度廣く販賣仕升香の地水や樟腦の如くゆみ付衣類を燒よわらす事なく蟲及び濕氣を拂ひ殊に洋服等の蟲害を防ぎ高尚なる香氣を有する特製品に付一度御試用の程偏に希願上升
御注文の節は早速御送附仕候
麴町區四丁目十五番地 電話番町三百九十七番
富田屋 櫻井商店
壹袋廿五錢 一引出し分 拾參錢

日本第一の大勸業場
東京新橋角 帝國博品館 電話新バシ一六五二 三六七

本場の特色
あらゆる物品を最も低廉なる正札附にて陳列販賣し市内ハ無代價にて配達致し又注文物品切手を發賣して館内孰れの店にても隨意の品と引換可申候

午前宅診 午後往診 入院隨時
內山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地 柳橋通り（電下二三六五）

産科婦人科 入院隨時
日本橋大傳馬鹽町拾四番地（電浪三一八三）
醫學士 佐藤得齋

眼科專門 診察時間 午前七時より十二時迄 午後三時より五時迄
神田連雀町十八番地（郵便局前）
ドクトル 宇良田唯子
▲毎月第一日は診料藥價共無料

院長 醫學博士 榊順次郎 婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保徳太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二 婦人生殖器病及泌尿器病 内科一般 火木土午後診察
●施診 火木土自午後一時至二時
婦人科産科 榊病院
麴町區三番町三三（電話番町三九五）

●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇、神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎

○院長 ドクトル 木村順吉
婦人科産科木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

産科婦人科 楠田病院
東京市日本橋區濱町三丁目七番地

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

内科一般 午前宅診 午後往診
板垣亭
東京神田美土代町三丁目十九番地 電話本局貳千九百七十番

小兒科診察
特ニ乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
獨逸新式種痘 日曜午前
拙者儀久シク獨逸伯林大學ニ於テ小兒科專攻歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年七月廿日發行（毎月五日廿日二回）定價金三錢一ケ月六錢郵税不要 廣告料一行金六拾錢 發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 大久保高明 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市ケ谷加賀町 秀英舍工場

和洋樂器大販賣所

電話新橋一二五九
振替口座七一五八

十字屋樂器店

東京銀座三丁目

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ様に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た様になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳号入 金拾五錢 六号入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは常時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價 最上 金七拾五錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
本國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

幸福なる生活を望む者は本書を讀め

山方香峯君新著

日常生活衣食住

衣服を衛生的經濟的に調製洗濯垢抜仕上保存するは如何にすべきか
食物の和洋の料理獻立什器の變化火加減材料の選擇は如何にすべきか
住宅の位置方位借家の心得建築方法監督間取建具庭園は如何にすべきか
◎生活の巧拙、禍福の岐るゝ所本書は一々圖解を挿み頗る詳密眞に空前の良書也

◎大版上製金文字入… 壹圓廿錢 郵税拾貳錢
東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社

松澤ホーサン石鹸

○本品は色白くつやをだす最良の化粧用石鹸なり
○近來にせ物多し松澤ホーサン石鹸と御買求を乞
(大形二十錢 小形十錢)

東京日本橋區本石町 ムスク香水本舗 松澤常吉 (振替貯金口座四四四七番)

高等滋養飲料
夏期御進物最佳品

發賣元 日本葡萄酒株式會社
本店 越後國高田町
支店 東京神田柳原河岸廿四號地 電話浪花二一一號

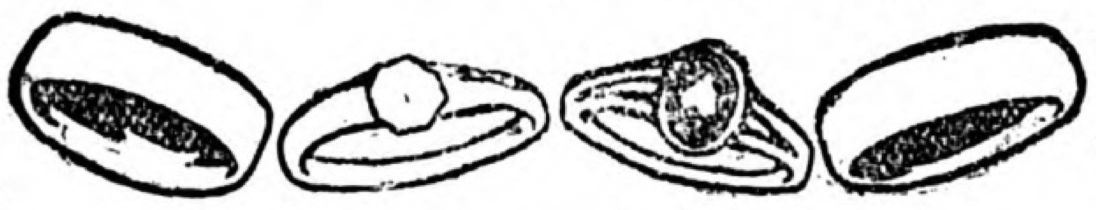
内務省衛生試驗所檢查濟

ムスク香油

◉原料は純良なる植物油
◉芳香は「スミレ」と「ムスク」(壹瓶五拾錢)

東京本石町四丁目 ムスク香水本舗 松澤常吉

高等御婦人用小間物各種



時々新形出來　數代の老舗

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著大ナル證明ノアルモノナリ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

最上醬油 キハク印
於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信略號(キハク)又(ハク)

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

みやび會 會員募集

本會は婦人の趣味を高尚ならしめむがため和歌と文章とを通信教授するを目的とす去明治卅五年以來本會々員にして　宮中歌御會始に當選の榮を擔ひし者既に五名に及びたり以て本會教授の效果著きを知るべし

東京市麹町區下二番町卅七 大日本女學會内
みやび會
電話番町一三二〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎總裁殿下御歸京　去七月一日新潟支部總會へ御台臨の　閑院宮妃殿下には本月七日御歸京あらせられたり當日の奉迎者左の通り

島津田鶴子代　山内禎子代　岡部坂子
谷玖満子　板垣絹子　阿部篤子代
細川岡子　黒木百子　松平須磨子
清浦錬子　有地楢子　千家俊子
濱尾作子　中山幸子　内山閑子
松海島子　古市幸子　藤井とく子
有馬幸子　仁杉猷子　平岡龍子
松崎悦子　飯塚里子　石崎鶴子
馬島園子　秋岡篤子　山本壽々子
松平正直　高松鉄太郎等
以下事務員數名

◎參事員會開會　七月三日午前九時本部に於て開會濱尾作子、柳谷千代子、中山幸子、有島幸子の諸氏出席審議する處ありて正午十二時散會せり

◎新潟支部第一回總會

同支部第一回總會は、豫定の如く七月六日午前八時より長岡市高等女學校に於て開會せられたり。本部よりは總裁閑院宮妃殿下を始めとして岩倉會長、評議員澁谷知和子氏以下事務員杉原金德、香川國平の兩氏等出張したり。式場は同校運動場に十二間に八間の雨覆を作りて之に充て、天井には萬國旗を吊下し、一壇高き殿下の御座所には金屛風を建廻し、傍に竹に夏菊を活けたる大花瓶を置きありて、莊嚴なる準備遺憾なく調へられありたり。其出席總員は會員軍人遺族癈兵を合せ約壹萬人と註せられたり。總裁殿下は今度赤十字社新潟支部總會（新潟市にて擧行）へ御台臨の　閑院宮殿下と御同伴岩倉會長以下を從へさせ、午前九時五十分御台臨あらせられ、御座所に御着座、岩倉會長以下定めの席に着かるゝや、桑原支部副長開會の旨を告げ、次で會員表を總裁殿下に奉呈し、續いて明治三十七八年の戰役に關し皇后陛下より同會に賜りたる御令旨を捧讀す、此時一同最敬禮を行ひ、兩殿下にも御起立、御敬禮遊ばさる。右終て總裁殿下には左の御諭旨を賜りたり。

愛國婦人會新潟支部は漸次會員增加し會務亦整ひ茲に其第一回總會の式を擧ぐるに至れるは智惠子の喜ぶ所なり今や戰役の後を受け本會の責務彌々重く事業の前途尙ほ遼遠なり會員諸氏益々奮勵し協心戮力以て本會の趣旨を達せんとを望む。

右に對し桑原支部副長は左の淸棲支部長の答辭を代讀せられ次て會務報告あり（報告書略之）

答辭

愛國婦人會新潟支部第一回總會を開くに方り畏くも總裁殿下の御台臨を辱うし優渥なる御諭旨を賜はりたるは當支部が無上の光榮とする所なり自今職員及會員と共に倍々奮勵努力して會務の擴張を圖り以て台旨に副ひ奉らんことを期す謹みて奉答す

次て岩倉會長、會員總代久須美鉐子氏は左の祝辭を朗讀せらる。

祝詞　（岩倉會長）

新潟支部會員諸氏は夙に本會の趣旨を賛成し赤誠を抛ちて其の擴張に努められ會員次第に增加し茲に第一回總會を開かるゝに至りたるは久子の誠に喜ぶ所なり

惟ふに日露の戰役は曠古の大擧を以て其局を結びたりと雖も將卒の死傷實に多かりき今や遺族癈兵の救護は戰後の急務となれり是れ正に本會員たる者の盡すべき秋なり希くは諸氏愈々奮勵し本會事業の發展に努められ總裁殿下の台旨に副ひ奉られんとを一言の希望を述べて祝詞と爲す

同　（久須美會員總代）

愛國婦人會新潟支部第一回總會を開かるゝに方り特に總裁殿下には遠路御台臨を賜はり我等幸に愛國婦人會員の末に加はりて此盛會に列し畏くも御諭旨を拜し奉るとを得たるは光榮何事か之に過ぎん今や戰役の後を承け遺族癈兵の救護益々緊要を加ふ今より後一層心を勵げまし力を協せ會務の發達を圖り以て御諭旨に應へ奉らん事を希ふ玆に會員一同に代り謹みて祝辭を述ぶ

右終りて總裁妃殿下より左の諸氏へ有功章を御親授あらせられたり。

△一等　淸棲滿、淸棲家教、桑原唯、河島愛、渡邊藤吉、淸水常作、淸水トメ、田巻ヨシ、寶田石油會社長山田又七

△二等　山田キイ、齊谷ヨシ、桑原八司、阿部於兎吉、牧野益、河島貝通、藤應將敬、山口セイ、川上セイ、市川ムロ

△三等　萬千野ジユン以下百六名

次に癈兵總代步兵少尉渡邊亮照氏並に遺族總代故步兵曹長加藤剛平氏父加藤周平氏に特別賜金を授與あらせられたり。當日參列の本會顧問淸浦男爵より癈兵、遺族諸氏に對し大要左の演說あり。

岩倉會長に代り名譽ある癈兵並に遺族の方に一言致します。

此處に參列せらるゝ癈兵、遺族の方々に、御目にかゝるも、亦御身の上の話を聞くも、實に御氣の毒で落涙に堪へませぬ。併しながら、皆樣の樣な癈兵、遺族の方々が出來たればこそ、戰爭に勝ち御國の光を輝かし、又茲に國民が安堵して職業に勵むとが出來る次第であります。

總裁殿下に於かせられても、深く皆樣方の御身の上を偲ばせられ、厚く御慰問申上ぐる樣にとのとて御座います。

右にて式を終り、兩殿下は午前十一時廿分御歸館あらせられ、會員並に癈兵、遺族は紀念品食品を受領して隨意退散せり。

宮城支部内遊說日誌

野中澗知

五月九日　午前十時四十二分山形發上り列車にて宮城支部に向ふ午後五時三十分着仙臺田疏前に投す當日停車場に出迎の重なる人は松永幹事員石橋西村兩副長春日幹事外三名石森主事横山事務員等なり

仝月十二日　午前五時三十分仙臺發下り列車にて石橋西川兩副長石森主事と共に古川町に向ふ小牛田驛にて下車同驛迄出迎の米原永澤兩幹事目下郡書記と共に馬車にて同町に着せしは八時卅分なり古川ホテルに投す午前十一時小學校に於て幹事部第一回總會開會當日は雨天加之農桑繁忙の時期にて相會する者僅々五百餘名君ヶ代の奏樂岩淵幹事部長開會の辭を述へ會計事務報告岩淵顧問奥村女史弔文朗讀龜井支部長代理石橋副長の祝辭幹事部長の答辭是にて一時休憩を告げ午後一時開會講話即時廿二名入會者あり（講話二時間）三時より引續き女學生三曲合奏女生徒四拾七名遊戯擊劍等の餘興あり了て一同紀念の撮影をなし散會後西村副長石森主事は歸仙石橋副長居殘り同夜九時頃竹內相談役等古川ホテルに同宿せり

仝月十三日　零時卅分栗原郡より古川町迄出迎の長野幹事部長腐子郡書記支部よりは石橋副長竹内氏と共に腕車にて長岡町に向ふ二時斗發砂社々務所に於て開會農桑の時期の事とて聽衆僅々百五十餘名同町迄出張の長野顧問閉會の辭を述へ次に講話四時間閉會後直に一行は四里半の道程を腕車にて幹事部所在地築館町に向ふ途中遺族を慰問し八時若部役所內客室に投宿せり十四日午前風雨を侵して遺族を慰問し午後二時郡役所樓上に於て開會當日は暴風雨にて雷鳴烈しく聽衆僅々三百餘名長野顧問閉會の辭を述へ次に講話四時三十分閉會後役員會員の十名と共に晩餐を催せり十五日午前七時加藤熱海兩幹事澁佐千郡書記支部よりは石橋副長竹內氏と共に栗里を出發し腕車にて岩崎町に向ふ十時若柳本旅館に投す午後二時圓鏡寺に於て開會聽衆四百餘名佐藤町長閉會の辭を述へ了て講話四時三十分閉會同本旅館に投宿せり

○和歌俳句短文新體詩募集

我が敬愛なる愛讀者諸姉よ時下綠陰の下逍遙に好時節涼風の來る處自然と名吟佳作を成すに絕好の節たり、諸姉よ此季を利し大いに作り多大の佳作を得て左の事項により陸續投せられん事を冀ふ

愛國婦人發行所

回數	種類	題	選者	締切期限
三七	新體詩	隨意	編輯局同人	八月十日限
五〇	短文	同	編輯局同人	八月十日限
三〇	俳句	夏季雜題	內藤鳴雪	八月廿日限
六〇	歌	萩の花	佐々木信綱	八月廿日限

附記　一二三等當選者には美しき扇子其他の物品を贈呈すへし

愛國婦人會會員女子人口比較表（明治四十年六月末日現在）

支部名	特別會員	通常會員	計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
石川	一、九九〇	一九、三九六	二一、三八六	三八五、四七八	五、五五	六一
山口	八四八	二五、九〇四	二六、七五二	五〇六、九二〇	五、二八	八
山形	九七六	二〇、六九二	二一、六六八	四三九、六一八	四、九三	一〇三
愛知	一、五一〇	三六、三七五	三七、八八五	八六八、五三八	四、三六	六
靜岡	二、八〇九	三〇、二八五	三三、〇九四	七七二、七四三	四、二八	一〇
岡山	一、〇八六	二二、五四六	二三、六三二	五七七、二七二	四、〇九	一二
兵庫	二、二八九	三四、二二四	三六、五一三	八九三、七三四	四、〇九	一七
富山	九八九	一三、三一三	一四、三〇二	三八四、九八二	三、七一	—
神奈川	一、七六一	一六、三四五	一八、一〇六	四九九、六二三	三、六二	四〇
北海道及函館	三、二三二	一五、〇七二	一八、三〇四	五〇七、六三八	三、六一	二
愛媛	五二三	一七、六〇二	一八、一二五	五一一、三九六	三、五四	四〇
熊本	二、八五五	一七、六一二	二〇、四六七	六一〇、四一一	三、三五	一二
香川	八二六	一〇、五七九	一一、四〇五	三四七、八九〇	三、二八	—
京都	二、二九五	一四、五三五	一六、八三〇	五二一、三九五	三、二三	一九
秋田	八三九	一一、九一六	一二、七五五	四〇三、九四六	三、一六	—
島根	三五二	一〇、七三二	一一、〇八四	三六二、六三五	三、〇六	—
群馬	一、五〇六	一二、〇一〇	一三、五一六	四五四、一七一	二、九八	二三三
福井	八三九	七、九一八	八、七五七	三〇二、一五四	二、九〇	—
青森	一、一四九	八、〇〇九	九、一五八	三二二、二一一	二、八四	七
佐賀	九〇三	八、三九三	九、二九六	三二七、六七八	二、八四	二
宮崎	九〇	六、六九八	六、九八八	二四七、二五二	二、八三	一八
長崎	三、二五一	一〇、四〇〇	一三、六五一	四八九、三五〇	二、七九	一
宮城	一、二八一	一〇、五九六	一二、〇七七	四四五、〇四七	二、七一	一一
大分	四五二	一〇、四〇五	一一、二五七	四三〇、〇二五	二、六二	三
栃木	八三〇	一〇、三八二	一一、二一二	四五〇、一二六	二、四九	七
三重	八二二	一一、八八四	一二、三〇六	五二二、〇四三	二、三六	七二
奈良	四八九	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	—
德島	二五三	七、四〇八	七、七六一	三五二、六〇八	二、二〇	五
岩手	三七八	七、四三七	八、一一五	三六九、二七八	二、二〇	一
大阪	三、六九七	一五、三五二	一八、五四九	八六三、四〇五	二、一五	—
高知	一五六	六、四二一	六、六七七	三一八、二四五	二、一〇	—
東京	八、一七二	一五、一九〇	二三、三六二	一、一五七、五一四	二、〇二	五八
福島	一、二五三	一〇、三一二	一一、五六五	五八二、一五六	一、九九	一
福岡	六六六	一一、八〇〇	一二、四六六	六四〇、八四八	一、九五	一二
滋賀	四六九	六、二三八	六、七〇七	三六四、六八八	一、八四	—
千葉	一、〇一四	一〇、八一〇	一一、八二四	六五六、七八二	一、八〇	二八
廣島	一、五八〇	一一、五五三	一三、一三三	七四六、六五五	一、七六	二
山梨	四〇二	四、〇〇九	四、四一一	二七二、一四八	一、六二	—
茨城	五三九	八、四一四	八、九五二	六〇〇、四一三	一、四九	一
埼玉	三四九	七、〇二八	七、三七七	六二七、五五六	一、一八	二七
鹿兒島	一、一〇三	五、八九二	六、九九五	五九四、九八五	一、一八	八
新潟	一、〇二七	九、三七〇	一〇、三九七	八九九、〇二一	一、一六	五
岐阜	七九〇	四、六〇三	五、三九三	五〇二、六五八	一、〇七	一
和歌山	二九〇	三、四三〇	三、七二〇	三五〇、〇六九	一、〇六	一
鳥取	一六六	一、九二四	二、〇九〇	二一七、五四一	〇、九六	四
長野	五九一	四、九六三	五、五五四	六七四、五一八	〇、八二	四
臺灣	一、三〇〇	一〇、〇八四	一一、三八四	一、四〇二、七七一	〇、八一	二一
沖繩	三四三	一、五五六	一、八九九	二三九、二二七	〇、七九	—
海外	七四八	二、一七三	二、九二一			二、七一三
計	六二、二八七	五八五、九七二	六四八、二五九	二五、三一三、〇四〇	二、五六	三、六二二

備考　支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス
北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ掲載セリ而シテ函館支部會員數ハ特別五百七人通常千六百九十五人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ

◎電話番町　五百二十番　千七百四十五番

愛國婦人會本部　東京支部　愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方支部の狀況

◎京都支部　七月五日午後二時過より評議員會を開く出席者は島田、中澤兩副支部長、川越、金子兩參與及評議員七名にして先づ臨時會員募集に關する行賞例改正並に幹事推薦の件に關する事後承諾は異議なく之を是認し次に暑中評議員會休止の件は九月十五日迄休會することに決し軍人遺族及廢兵に對する救護方法改正の件は從來の方法の儘に成べく多數に渉りて救護することに決し夫より八田主事は本部に於ける主事會決議事項等を報告し五時頃散會せり

◎石川支部　七月八日午前十時より金谷館に於いて幹事部長會議を開けり當日は江沼郡幹事部長を除くの外悉く出席し尚ほ支部よりは村上支部長、高安、若林兩副長、佐藤主事以下各職員も出席し先づ本部より來りたる遊說員宮根眞喜子氏は將來に於て本邦が執るべき方針に付一場の講話を爲し次で軍人遺族の救護、戰病死者孤兒の救育其他の件を決議し午後二時過ぎ散會せり▲七日午後大谷派別院にて故奥村五百子刀自の追悼會を營み僧侶五十餘名の嚴肅なる讀經回向ありし後高安夫人の追悼文朗讀あり後更に讀經あり夫れより列席にて宮根眞喜子氏の講話あり餘興には狂言等ありたり參列者は村上知事渡瀨市長以下千餘名にて頗る盛會なりき

◎長野支部　本年九月上旬を期し總會を開く筈にて目下夫々準備中なるが當日は總裁宮殿下の御臺臨ある由にて設備の趣向を考究中なり▲大町委員部總會は既報の如く去る廿八日大町小學校に於て開く出席會員六十有餘名來賓としては各官衙及び學校職員等にて二十有餘名午後二時開會大町町長栗林卒一部氏開會の辭を述べ次に横田郡長の日本婦人の德性に就ての約三十分餘に亘る演說次に大町鈴木中學校長の希望演說あり次に廣田貢之助（海軍大尉相當）氏の日露戰役に於ける海軍實戰談あり終て茶話會に移り餘興として福引、小學校生徒の遊戲あり夜間には日露戰爭畫に就ての幻燈會を開き廣田氏說明の勞を取り頗る盛會になりき

◎栃木支部　眞岡町幹事部にては先頃會務擴張其他會員相互親睦の爲め郡役所にて臨時總會を開きたり出席員は青木幹事部長以下幹事數十名會員約百名各々歡話數刻の後小學校に下附せられたる戰利品の未配附の儘なるを同樓上に陳列し一般に參觀せしめしかば會員其他今更ならぬ吾軍の偉大なる戰功を稱し又武器には點々血痕の銹びたる跡あるを見て轉々吾殉國男士の爲めに泣き更に巨大なる十五珊加農砲彈に驚き來會の婦人に多大の感動を與へしもの丶如く餘興として蓄音機を使用せしかば會員其他欣然として時の移るを知らざりしと云ふ

◎岡山支部　上房郡上竹莊村幹事部第二回總會は七月三日樂道尋常高等小學校講堂に於て開會し大月村長の開會の辭幹事妹尾松子女の祝辭山根校長に熊訓導の講演あり式後福引の餘興茶菓の饗應あり

◎島根支部　總會は九月下旬開催の筈にて、總裁閑院宮妃殿下御臨場のため九月廿三日東京御發車京都若くは大阪にて御一泊の上二十五日舞鶴より宮津に成らせられ軍艦若しくは汽船にて美保關御通過即日松江に向はせらるゝ御豫定に入らせらるゝ由のため支部總會は廿六日か七日かのうちとし其期日會場御旅館等は追て支部評議員會の決議を待つて決定すべしとのこと

◎臺灣支部　支部其他の婦人團體代表者に依て目下募集せられつゝある隘勇前進隊慰問義捐の結果は頗る好成績の由なるが第二回慰問として切千大根の漬物入十樽肌衣若干を送附せり

◎金澤公園內　に於て六月十五、十六の兩日例年の如く各戰役忠死者の招魂祭典を擧行したるを機とし職員會の決議に基つて參列遺族に對し茶菓の接待をなしたり餘興として職員の蓄音寄附あり四永、原、中西の各幹事之れが使用者となり始終遺族をして慰めしめたり因記當日は天氣晴朗參列者亦多く遺族は殆ど四千餘名に達したり

◎熊本支部　七月八日午前九時赤十字社熊本支部に於て例會を開會し鶴山順子氏の料理法の講話南木大藏氏の家庭談等あり正午散會す來會者押川支部長、石原支部副長以下二十五名にして細川侯爵令孃靜子氏にも家從を從へ臨席せられたり

◎群馬支部　七月二日前橋柳町臨江閣に於て各郡市幹事部長會を開き本年十月總會開催の件に付諮事協議する所ありたり

附記前號に於て來年一月開催の事に掲載したるは本年十月の誤り

◎埼玉支部　入間郡川越町山崎いち女は德行比類なく嘗て一村に名高かりしが今回賞勳局より綠綬褒章を賜はりたり支部長は特に金五圓を同女に寄附し其德行を表彰せり同女の事に關しては次號を俟て更に詳報する處あるべし

愛國美譚

伏屋の月

今年一月十九日の事なりき。福井縣坂井郡並木幹事部長は、婦人役員と男子事務員と共に會員募集の爲、同郡加戸村に出張せる折柄、村長藤田氏の語り出でける樣は、村內に新井外吉なるものあり、土地も持たず貯蓄もなく、其日稼ぎの赤貧者にて、夫婦の中に男子四人の子あり、さるに同人は此程五十錢銀貨二個を持參し、妻きくを愛國婦人會へ入會の手續を依賴し、且つ其實情を述べて曰く、私は平生御承知の通りの貧乏人に候へば、御上へ對して貢租をも納むると御座なく、日露大戰役の時も、他の人々の如く軍人の送り迎へ、又は慰問などをも爲し得申さず、されば戰役中は、眠りに就くにも箸を執るにも、毎に御國に對して相濟まぬと、其れのみ苦勞に致し、少時も安き心とでは候はざりき。然るに此頃愛國婦人會にて、御國の爲に御盡力下さると聞き、せめては妻きくを同會に入れて、御奉公の一端を盡したく存じ、夫婦心を合せて、毎夜就眠時間を凡そ三十分づゝ遲くして、特に藁仕事を爲し、其得たる金を積みたるが此金にて候。尚ほ今後に於ても、夫婦共乾度怠らず、撓まず、此特別の藁仕事を相續け、必ず義務を履行致すべく候まゝ、何卒入會御許しある樣御取計らひ下されたしとて、熱心面にあふれ、思ひ止まる機もなければ、さりとて餘りに赤貧者の事なれば、如何して宜しからんと、其持參せし金は預り置きしが、尚ほ申告は見合せありと、村長が涙ながらの物語りに、並木部長は感に堪へず、世には大厦高樓に住み、美衣美食に飽きながら、御國に盡さん心懸けの薄弱なる人の多かるに、然りとては又あはれ奇特の人もあるものかなと、斯る奇特の人の入會は願うてもなき事なれば、速に申告ありたし。尚ほ斯る人に一度面會の榮を得たしとて、村役場員の案內にて、新井外吉氏の家を訪はれしに、是れは又聞きしにも增したる破屋にて、柱は傾き壁は落ち、戸障子に代ふるに薦を吊れり、そをくぐり入れば家內暗澹として人々の顏だに見分け難く、夫婦は裳短き單衣を重着し、子供は爐邊に殘熱の灰に圍み居れり。部長は感涙に咽びて言ふ所を知らず、唯入會を諾する旨を告げ、其心懸のけなげなるを賞し、夫婦を慰めつゝ、子供にとて菓子料若干を贈りて辭し去れりとぞ。鳴呼斯る破屋に住みながら、かくも光輝ある心の人あり、洵に貴ぶべき會員にてこそ。

漁夫の眞心

愛知縣は愛知郡のなる一色村とて、多くの人も知らざる村落あり、此の村は海邊に沿うて部落を爲せる漁村にして、一村擧つて漁業の外又生活の途を取らず、住へる村人は色も黑く／＼と男女の區別すら殆んど見分付かぬ位、然かれども天の與へし美風は、身形や姿に構はずに唯一生懸命に打働くのみにあり。折しも本會遊說員野中知子女史は、各所遊說の途次同郡幹事部役員の先導により此村を訪ひ、一日村人を或一堂に集め、一夕の講話をせり、聽衆三百餘名何れも熱心に之を聞き、其動作の靜肅なる、村夫としては他に稀にも見ざるの聽者たりしかば、女史も益々熱心に講述せると約一時半、時恰かも暮色漸く夜色の代らんとする頃ほひにて、最早講話を切上べく折しも、聽衆の後へより燈火を付けよと叫びし者あり衆之に和し異口同音に、點火の上もつと講話を聞きたしと、健氣なる熱心の情溢るゝばかりなりければ、女史も尚ほ勇を鼓し、更に一時半の講話を續行し、前後三時間に涉る長談をなして了れり、講話終るや一統の聽者鳩首して、協議せる結果左の如く申込めり成程唯今の御話で、段々考へて見ますと、萬一敵ありて吾地を占領しなば、是迄の如く安堵して、此業を營むとは出來ぬ事であるのに、夫れを何んの憂もなく、業に安じて居られるのは、皆御國の御庇、其上に強い忠勇なる將卒のあればなり、而るに我々漁夫の身にして、奉公の途の心盡しをせざりしは、其機會を得ぬ爲め、時も時とて斯る邊部の漁村へ、婦人會の趣旨を傳へられしは、願うてもなき幸ひ、せめては我々の代りとして、此村の女子どもを入會させ、依之奉公の萬分の一に致度と思ひしに、御趣意を聞けば會員たる者は、自分の手により稼ぎ得たる收得にて、會費を收め入會するとのこと、然るに此村は見らるゝ通りの漁村にして、女子どもは何んの技藝もなき、無教育にて自ら五本の指により、稼ぐといふとは一寸途がない、其所で男子に於て從來の漁區へ二個の引網を增し、得たる雜魚なり海老なりを、女子達に販賣させ、其金を會費に充て入會したしと此希望により即時七拾餘名の入會者を見たりと、遊說員野中女史より聞及びぬ。實に、淡き人の情の世の中にも、斯る又と得難き公共慈愛に厚き、天眞の動作は、眞に世の模範とすべく、實に賴母敷となり

廣告

今般左の通り電話增設に付き可相成該電話御使用相成度候也

番町千七百四十五番

愛國婦人會　東京支部

愛國婦人發行所

◎本年六月中郵便にて受領せる愛國婦人雜誌代金送金者氏名左の如し　愛國婦人發行所

小山登美子　中島まき子　石谷たき子　宇野きよ　杉本千代野　華園しけ　横山橘子　山口縣阿武郡幹事部　丹尾琴子　錢輪貞子　水野宇多子　財部二三　坂元マツ　河野トク　三重縣阿山郡幹事部　世良ハツ　針木久良子　內山幸三郎　松本イシ子　種子田シゲ　三宅齡子　早澤範一　鹿兒島大取次　紫田源吉　廣田ヤス　山口キヨ　中森しげ　廣長淸子　水野飯子　白石糸　佐久間しげ　中川酉子　小田むめ子　田尻ゑと　池田鶴子　藤井サト　寺田ナカ　山田ヤス　林サタ　今井糸子　小島ケイ子　小針トミ　江川つね子　成相敬子　木森千代子　河內りつ子　足利つゆ　三村田計子　淵重房　熊谷百代　中山つる子　山本善嶽　田中光子　横川まき拔　光風館　三好庫子　菊地よら子　金原直子　關定孝　大野のぶ　土井房子外五名　石村ふじ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN